

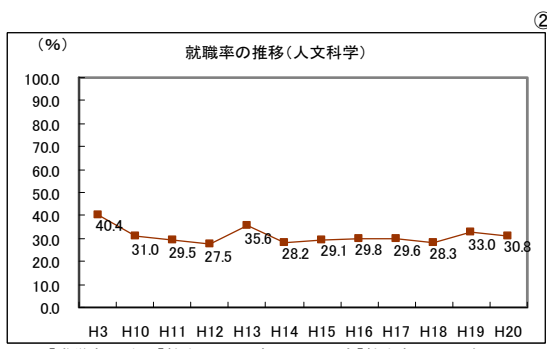
2-(1) 学問分野別・学位レベル別の大学院に関する資料

① 人文科学・博士

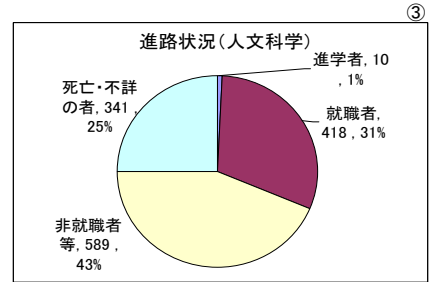
学生数(平成20年度) ①

合計	7,508人(100%)
旧帝大	2,411人(32%)
その他国立	1,325人(18%)
公立	378人(5%)
大規模私学	1,970人(26%)
その他私学	1,424人(19%)

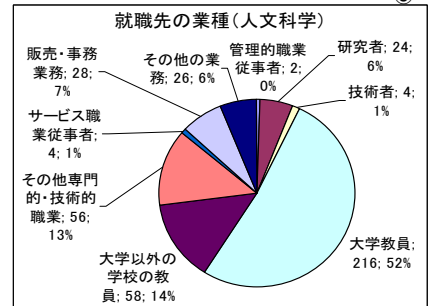
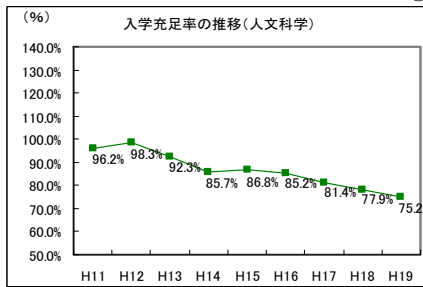
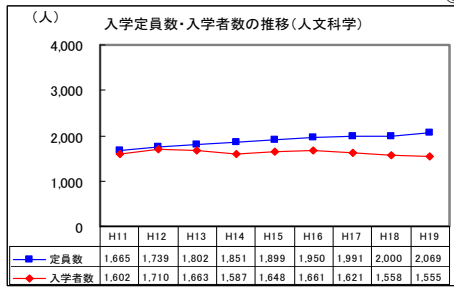
※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」についても「就職者」として計上



※就職者のうち45人、非就職者等のうち115人の計160人(12%)はポストドク等に就いていたことが判明している(④)



⑧ 標準年限内の学位授与と状況(平成18年度)
163人/1651人 (10%)

⑨ 教員1人当たり博士課程学生数
0.34人 ※人文・社会系の平均

⑩ 教員1人当たり研究支援者数
0.19人 ※人文・社会系の平均
※研究支援者は「研究補助者」、「技能者」、「研究事務その他の関係者」の合計

⑪ 教員1人当たり年間研究費
1772万円 ※人文・社会系の平均
⑫ 教員1人当たり年間外部資金獲得額
149万円 ※人文・社会系の平均

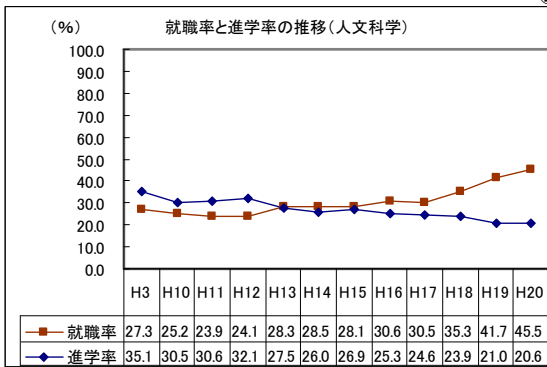
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、⑤、⑥、⑦(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):④、⑧ 平成20年科学技術研究調査(総務省統計局):⑨、⑩、⑪、⑫

② 人文科学・修士

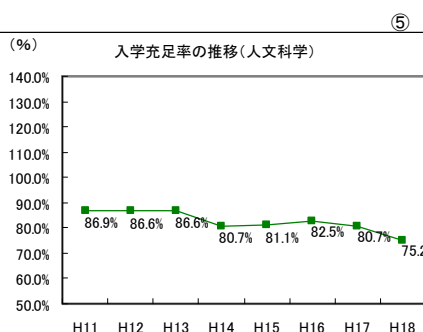
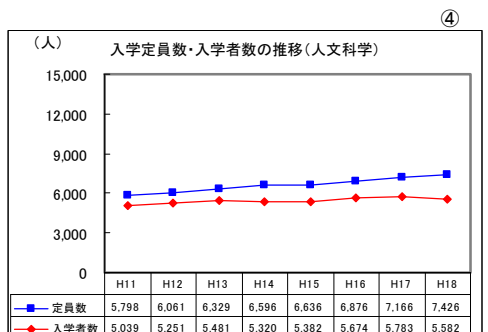
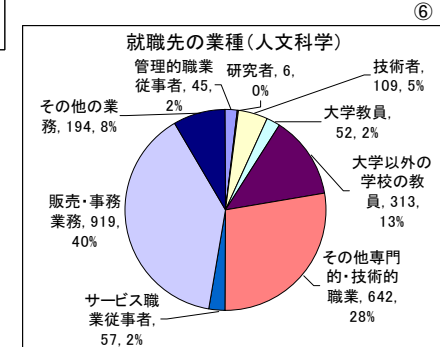
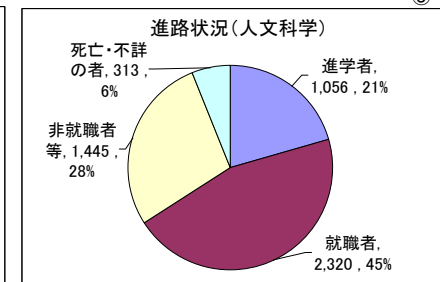
学生数(平成20年度) ①

合計	12,828人(100%)
旧帝大	1,944人(15%)
その他国立	2,040人(16%)
公立	498人(4%)
大規模私学	3,035人(24%)
その他私学	5,311人(41%)

※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」については「就職者」として計上



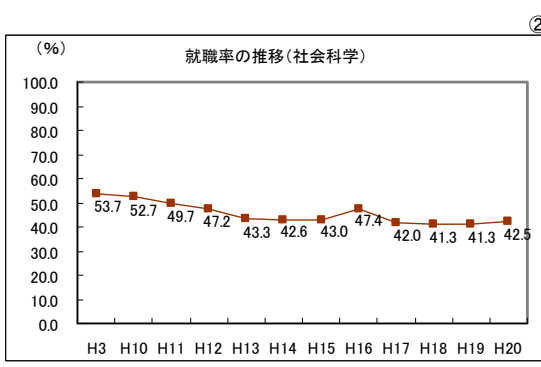
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、④、⑥(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):⑤

③社会科学・博士

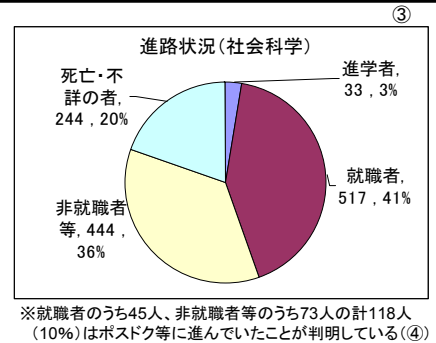
① 学生数(平成20年度)

合計	7,315人(100%)
旧帝大	1,368人(19%)
その他国立	1,905人(26%)
公立	489人(7%)
大規模私学	2,523人(34%)
その他私学	1,030人(14%)

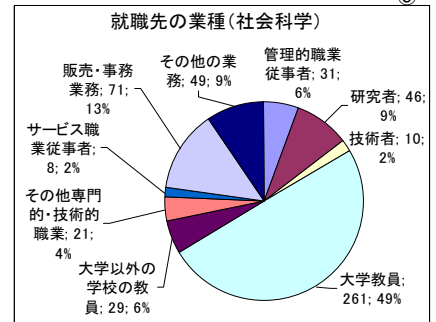
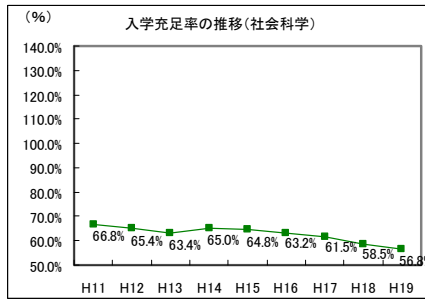
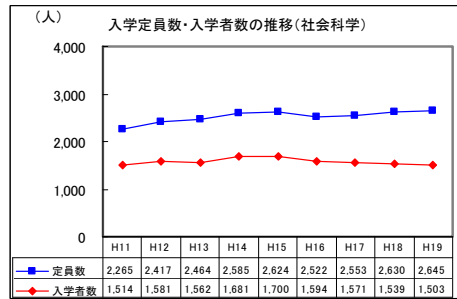
※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」についても「就職者」として計上



※就職者のうち45人、非就職者等のうち73人の計118人(10%)はポストドク等に就いていたことが判明している(④)



⑧ 標準年限内の学位授与と状況(平成18年度)
284人/1609人 (18%)

⑨ 教員1人当たり博士課程学生数
0.34人 ※人文・社会系の平均

⑩ 教員1人当たり研究支援者数
0.19人 ※人文・社会系の平均
※研究支援者は「研究補助者」、「技能者」、「研究事務その他の関係者」の合計

⑪ 教員1人当たり年間研究費
1772万円 ※人文・社会系の平均

⑫ 教員1人当たり年間外部資金獲得額
149万円 ※人文・社会系の平均

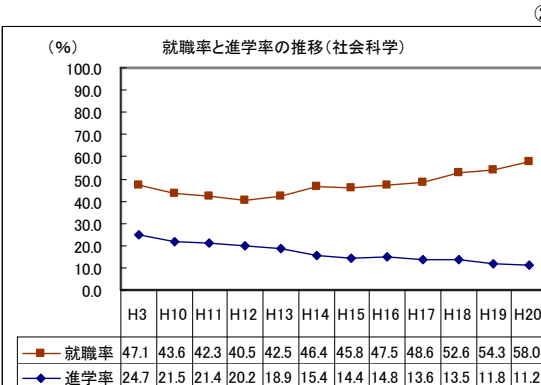
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、⑤、⑥、⑦(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):④、⑧ 平成20年科学技術研究調査(総務省統計局):⑨、⑩、⑪、⑫

④社会科学・修士

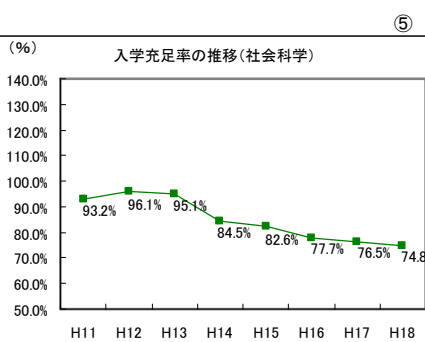
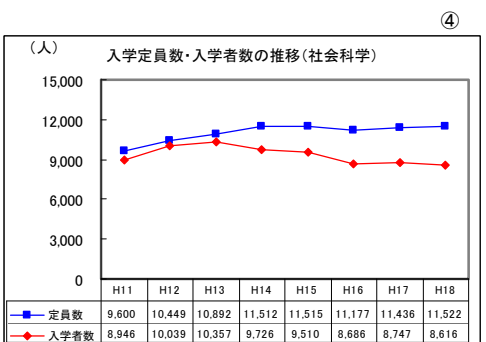
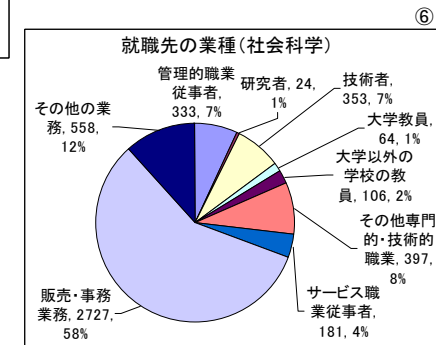
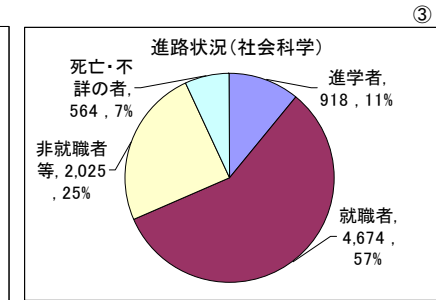
① 学生数(平成20年度)

合計	18,740人(100%)
旧帝大	1,333人(7%)
その他国立	3,569人(19%)
公立	1,156人(6%)
大規模私学	6,207人(33%)
その他私学	6,475人(35%)

※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」については「就職者」として計上



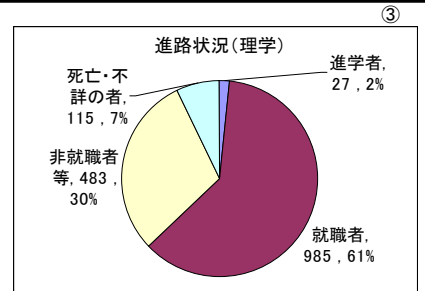
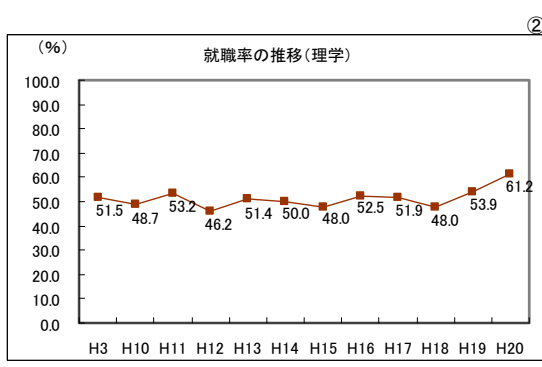
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、④、⑥(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):⑤

⑤理学・博士

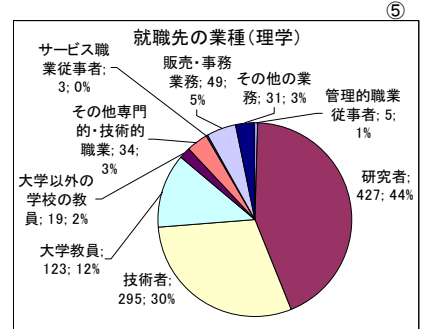
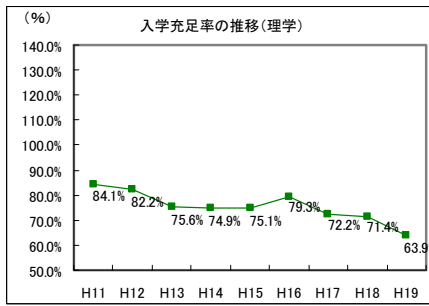
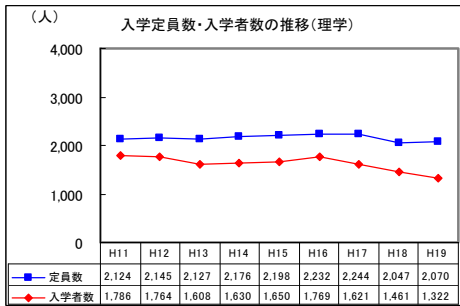
① 学生数(平成20年度)

合計	5,313人(100%)
旧帝大	2,754人(52%)
その他国立	1,723人(32%)
公立	384人(7%)
大規模私学	325人(6%)
その他私学	127人(2%)

※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※就職者のうち186人、非就職者等のうち261人の計447人(28%)はポストク等に進んでいたことが判明している(④)



⑧ 標準年限内の学位授与と状況(平成18年度)
853人/1696人 (50%)

⑨ 教員1人当たり博士課程学生数
0.67人

⑩ 教員1人当たり研究支援者数
0.70人
※研究支援者は「研究補助者」、「技能者」、「研究事務その他の関係者」の合計

⑪ 教員1人当たり年間研究費
3270万円
⑫ 教員1人当たり年間外部資金獲得額
801万円

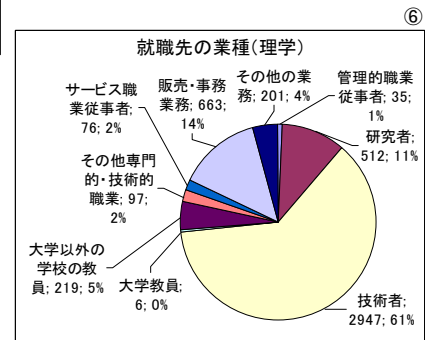
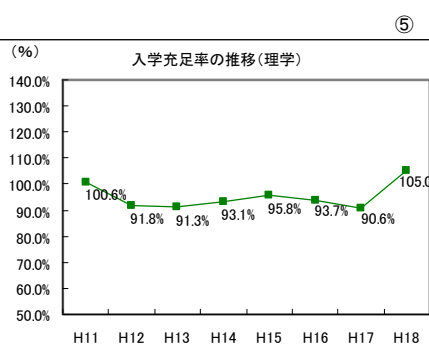
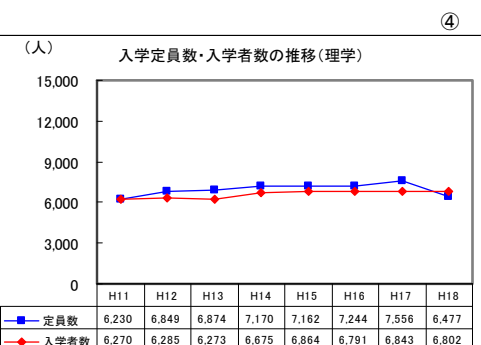
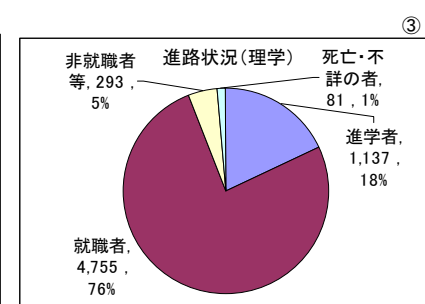
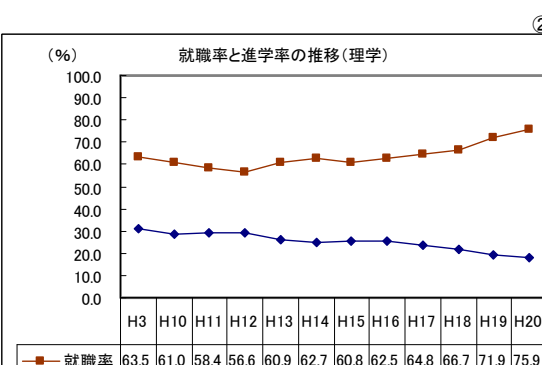
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、⑤、⑥、⑦(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):④、⑧ 平成20年科学技術研究調査(総務省統計局):⑨、⑩、⑪、⑫

⑥理学・修士

① 学生数(平成20年度)

合計	13,736人(100%)
旧帝大	4,416人(32%)
その他国立	4,951人(36%)
公立	1,086人(8%)
大規模私学	2,153人(16%)
その他私学	1,130人(8%)

※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



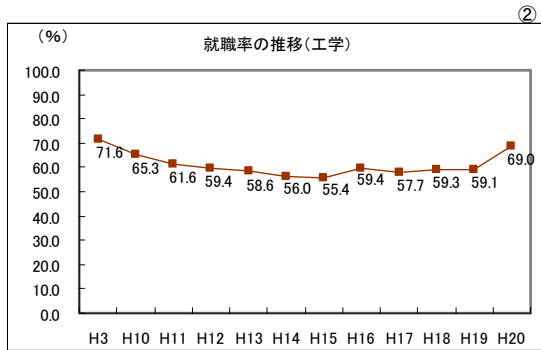
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、④、⑥(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):⑤

⑦工学・博士

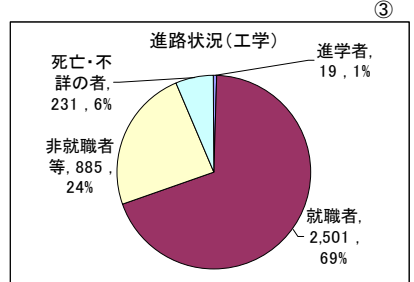
① 学生数(平成20年度)

合計	11,321人(100%)
旧帝大	5,010人(36%)
その他国立	6,311人(46%)
公立	481人(3%)
大規模私学	1,178人(9%)
その他私学	775人(6%)

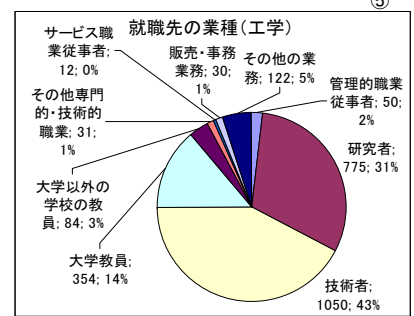
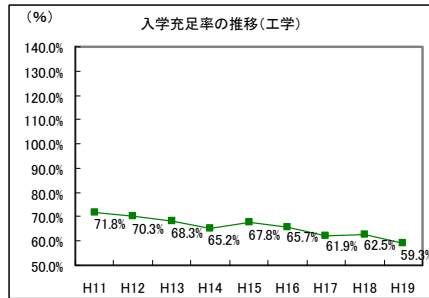
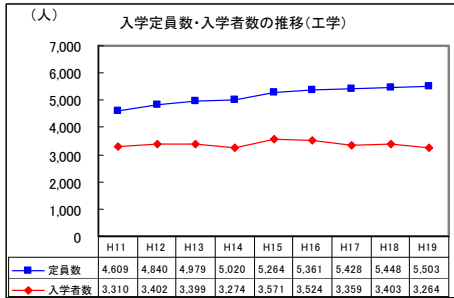
※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」についても「就職者」として計上



※就職者のうち157人、非就職者等のうち359人の計516人(14%)はポストク等に進んでいたことが判明している(④)



⑧ 標準年限内の学位授与と状況(平成18年度)
2008人/3888人 (52%)

⑨ 教員1人当たり博士課程学生数
0.50人

⑩ 教員1人当たり研究支援者数
0.38人

※研究支援者は「研究補助者」、「技能者」、「研究事務その他の関係者」の合計

⑪ 教員1人当たり年間研究費
2257万円

⑫ 教員1人当たり年間外部資金獲得額
558万円

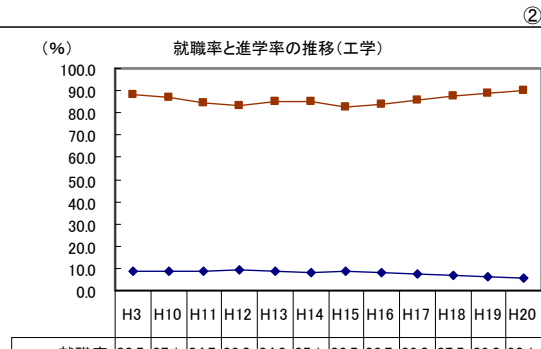
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、⑤、⑥、⑦(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):④、⑧ 平成20年科学技術研究調査(総務省統計局):⑨、⑩、⑪、⑫

⑧工学・修士

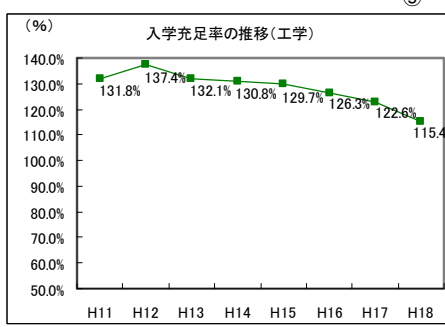
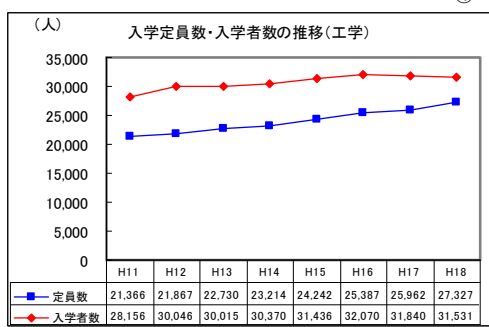
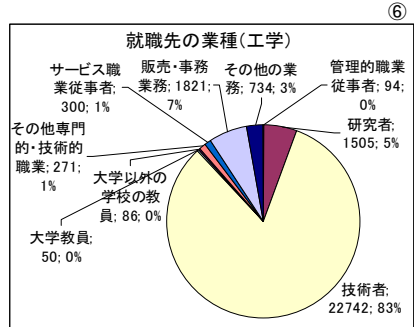
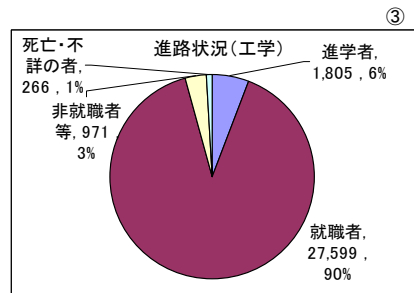
① 学生数(平成20年度)

合計	65,277人(100%)
旧帝大	13,027人(20%)
その他国立	29,529人(45%)
公立	2,783人(4%)
大規模私学	12,438人(19%)
その他私学	7,500人(11%)

※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」については「就職者」として計上



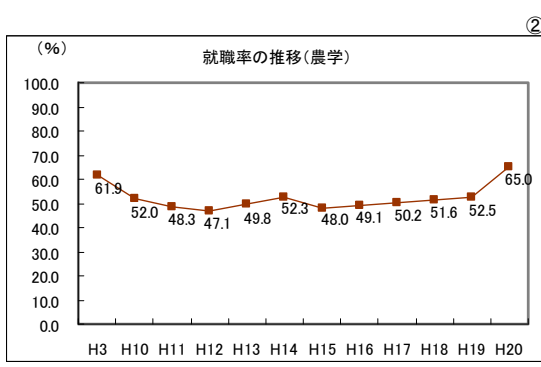
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、④、⑥(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):⑤

⑨農学・博士

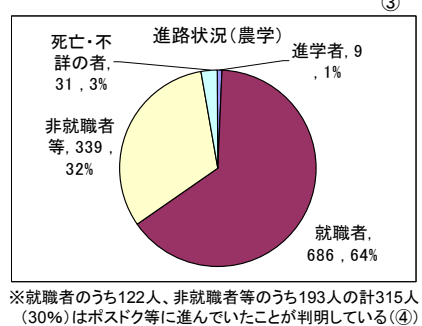
① 学生数(平成20年度)

合計	4,113人(100%)
旧帝大	1,618人(39%)
その他国立	2,041人(50%)
公立	128人(3%)
大規模私学	100人(2%)
その他私学	225人(5%)

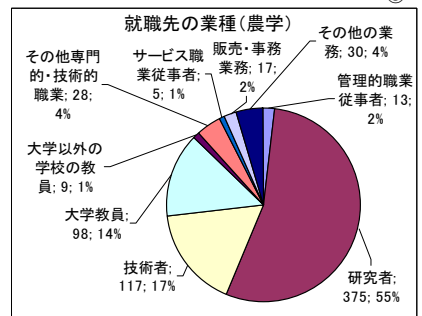
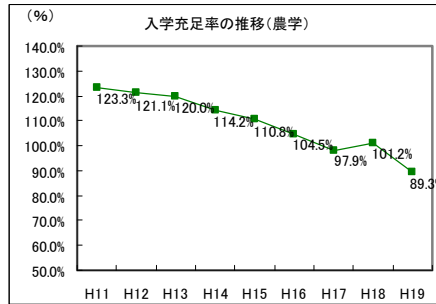
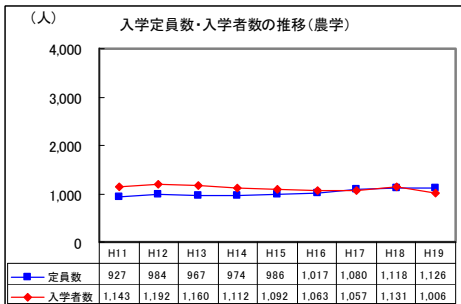
※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」についても「就職者」として計上



※就職者のうち122人、非就職者等のうち193人の計315人(30%)はポストク等に進んでいたことが判明している(④)



⑧ 標準年限内の学位授与と状況(平成18年度)
628人/1231人 (51%)

⑨ 教員1人当たり博士課程学生数
0.67人

⑩ 教員1人当たり研究支援者数
0.60人

※研究支援者は「研究補助者」、「技能者」、「研究事務その他の関係者」の合計

⑪ 教員1人当たり年間研究費
2231万円

⑫ 教員1人当たり年間外部資金獲得額
539万円

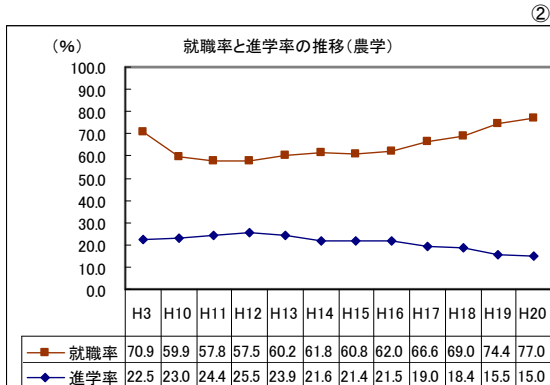
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、⑤、⑥、⑦(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):④、⑧ 平成20年科学技術研究調査(総務省統計局):⑨、⑩、⑪、⑫

⑩農学・修士

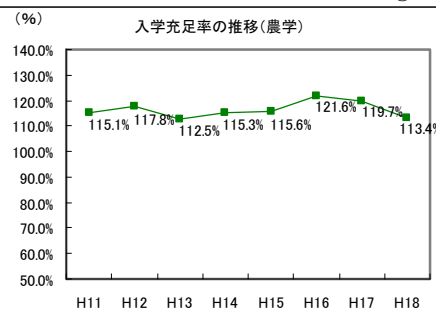
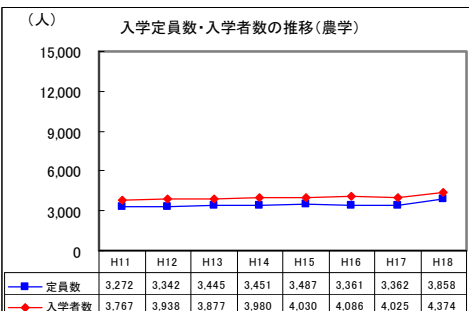
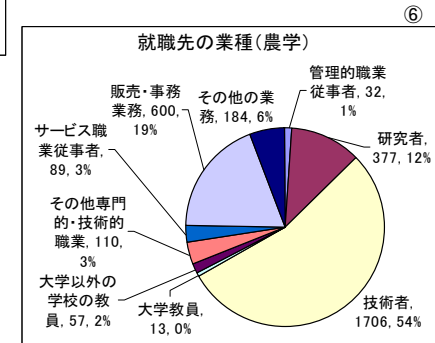
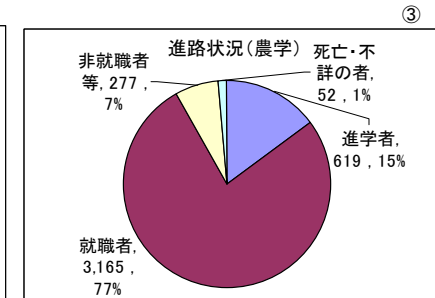
① 学生数(平成20年度)

合計	9,108人(100%)
旧帝大	2,785人(31%)
その他国立	4,905人(54%)
公立	300人(3%)
大規模私学	582人(6%)
その他私学	536人(6%)

※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」については「就職者」として計上



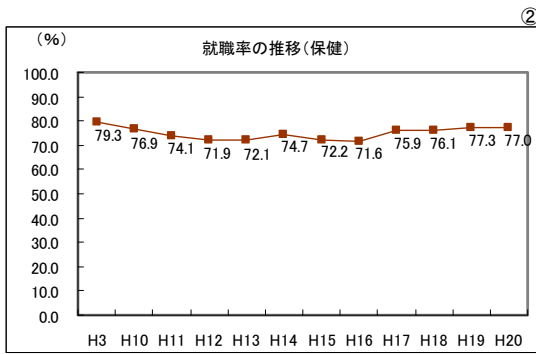
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、④、⑥(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):⑤

⑪保健・博士

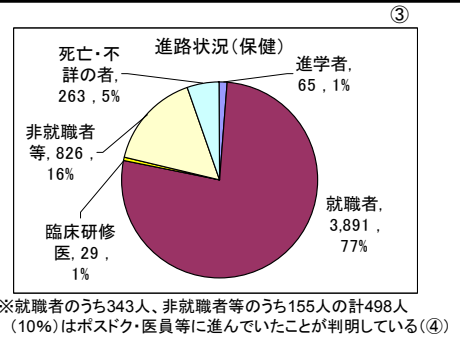
① 学生数(平成20年度)

合計	24,134人(100%)
旧帝大	5,873人(24%)
その他国立	10,785人(45%)
公立	1,838人(8%)
大規模私学	1,109人(5%)
その他私学	4,529人(19%)

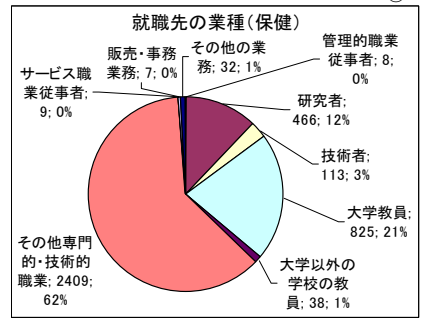
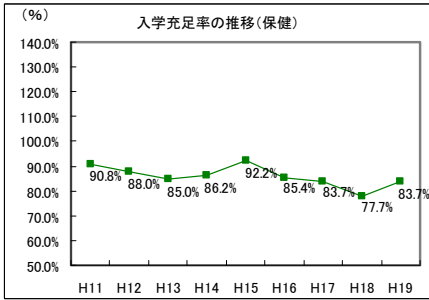
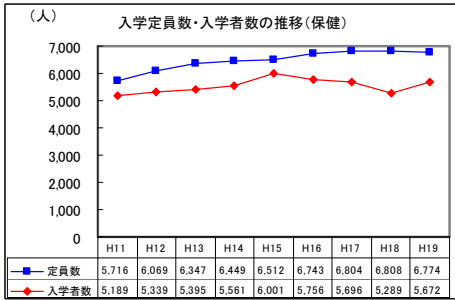
※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」についても「就職者」として計上



※就職者のうち343人、非就職者等のうち155人の計498人(10%)はポストク・医員等に進んでいたことが判明している(④)



⑧ 標準年限内の学位授与と状況(平成18年度)
3419人/6085人 (56%)

⑨ 教員1人当たり博士課程学生数
0.40人

⑩ 教員1人当たり研究支援者数
0.31人
※研究支援者は「研究補助者」、「技能者」、「研究事務その他の関係者」の合計

⑪ 教員1人当たり年間研究費
1675万円
⑫ 教員1人当たり年間外部資金獲得額
385万円

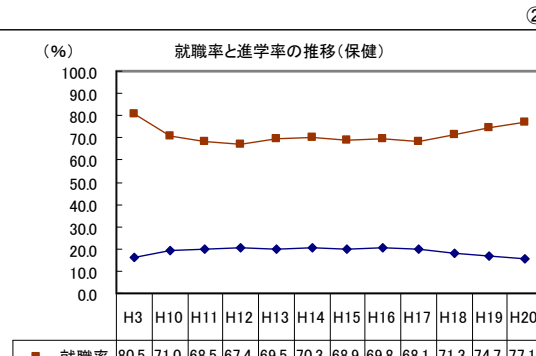
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、⑤、⑥、⑦(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):④、⑧ 平成20年科学技術研究調査(総務省統計局):⑨、⑩、⑪、⑫

⑫保健・修士

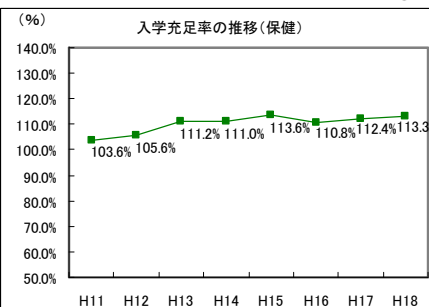
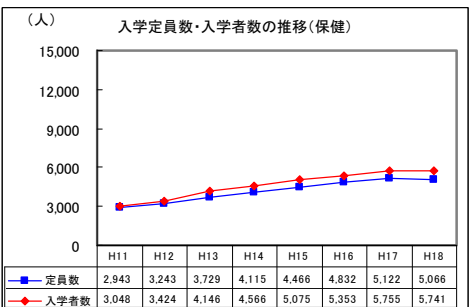
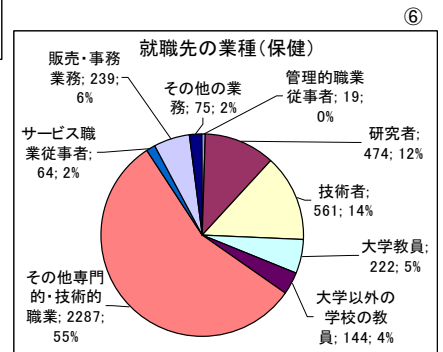
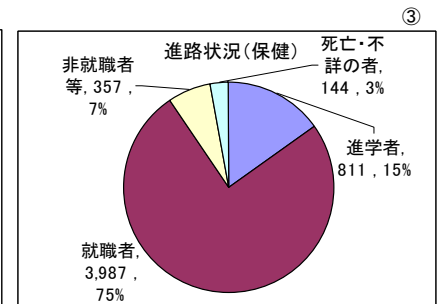
① 学生数(平成20年度)

合計	13,283人(100%)
旧帝大	2,170人(16%)
その他国立	4,327人(33%)
公立	1,705人(13%)
大規模私学	1,045人(8%)
その他私学	4,036人(30%)

※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」については「就職者」として計上



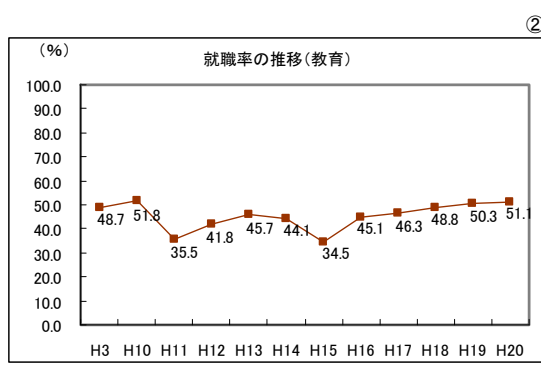
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、④、⑥(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):⑤

13 教育・博士

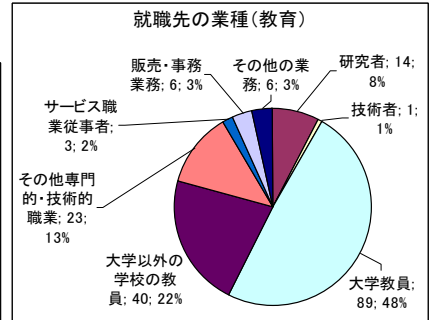
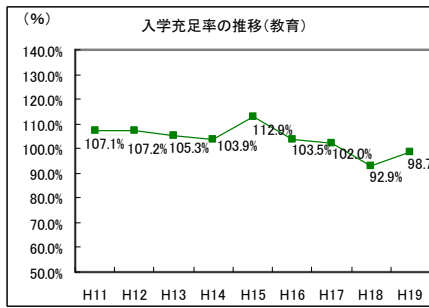
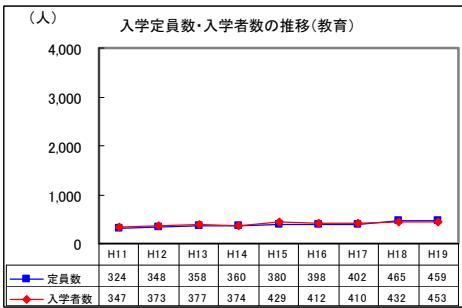
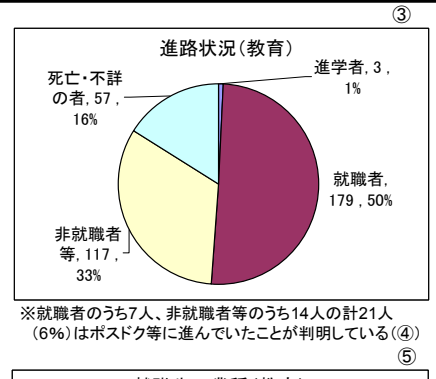
① 学生数(平成20年度)

合計	2,021人(100%)
旧帝大	652人(32%)
その他国立	765人(38%)
公立	11人(1%)
大規模私学	402人(20%)
その他私学	191人(9%)

※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



※「進学者」のうち「就職している者」についても「就職者」として計上



⑧ 標準年限内の学位授与と状況(平成18年度)
100人/443人 (23%)

⑨ 教員1人当たり博士課程学生数
0.14人

⑩ 教員1人当たり研究支援者数
0.19人
※研究支援者は「研究補助者」、「技能者」、「研究事務その他の関係者」の合計

⑪ 教員1人当たり年間研究費
1559万円
⑫ 教員1人当たり年間外部資金獲得額
95万円

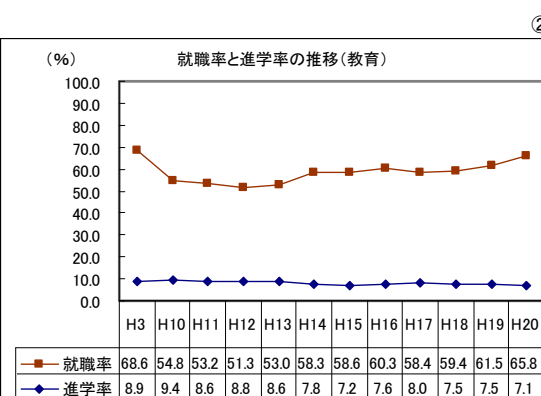
(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、⑤、⑥、⑦(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):④、⑧ 平成20年科学技術研究調査(総務省統計局):⑨、⑩、⑪、⑫

14 教育・修士

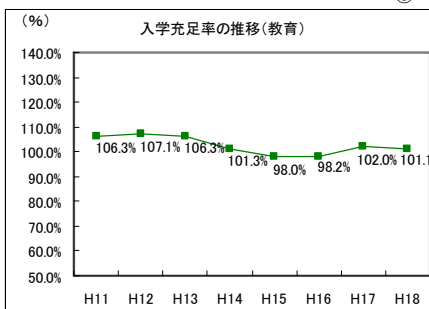
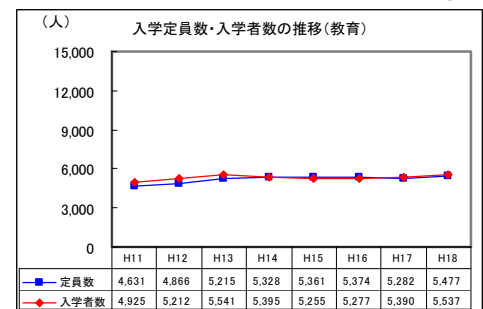
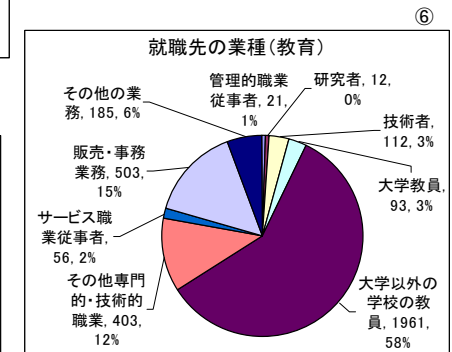
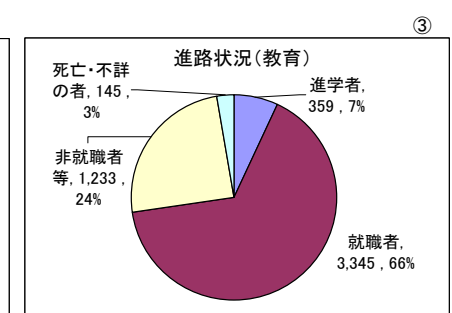
① 学生数(平成20年度)

合計	11,467人(100%)
旧帝大	599人(5%)
その他国立	9,219人(80%)
公立	54人(0%)
大規模私学	847人(7%)
その他私学	748人(7%)

※大規模私学・・・入学定員2500人以上の大学



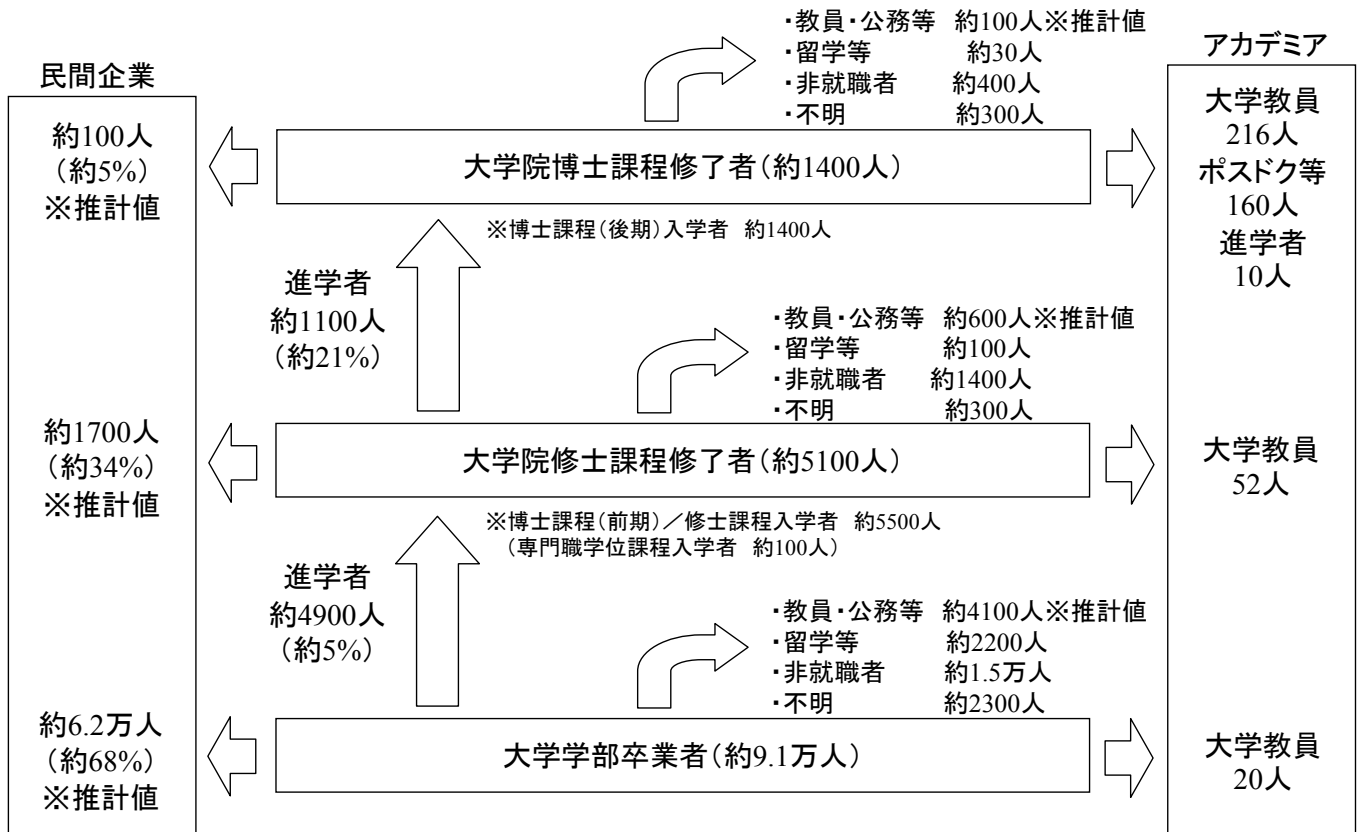
※「進学者」のうち「就職している者」については「就職者」として計上



(出典)学校基本調査(文部科学省):①、②、③、④、⑥(最新は平成20年度調査) 平成19年度大学院活動状況調査(大学振興課):⑤

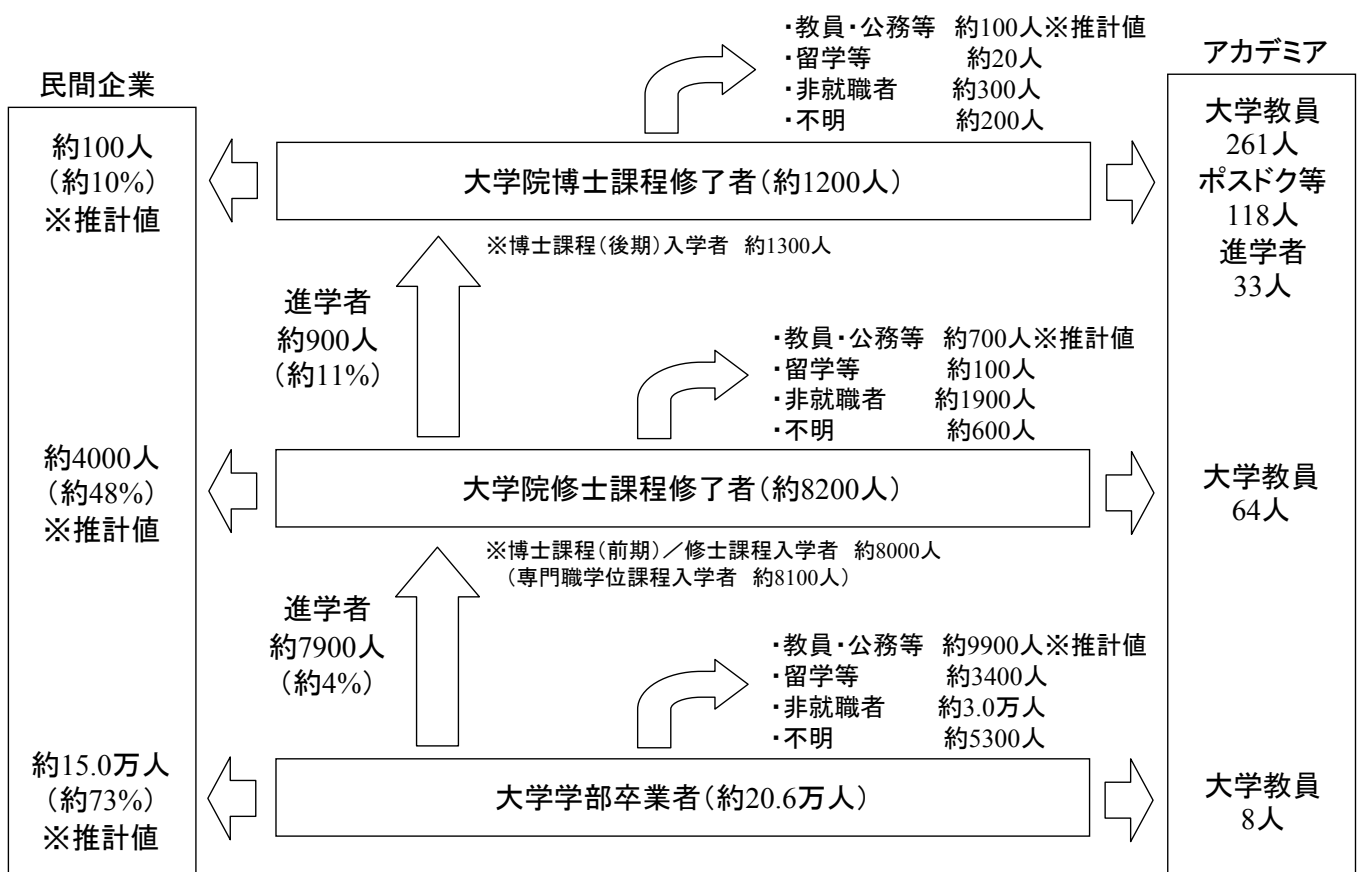
2-(2)学問分野別の進路フロー推計

①人文科学



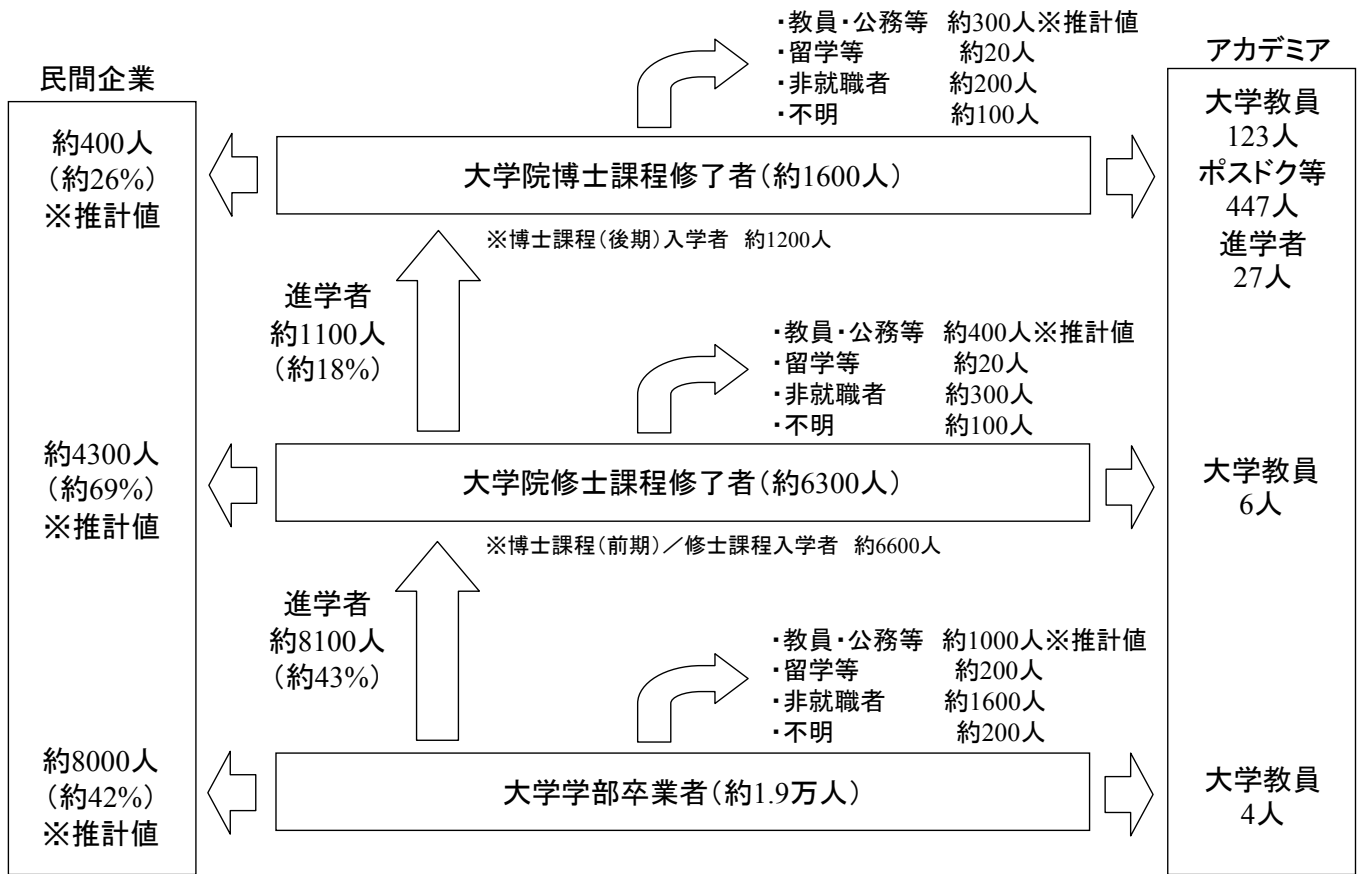
※平成20年度学校基本調査(文部科学省)及び平成19年度大学院活動状況調査(文部科学省大学振興課)より作成(一部推計)

②社会科学



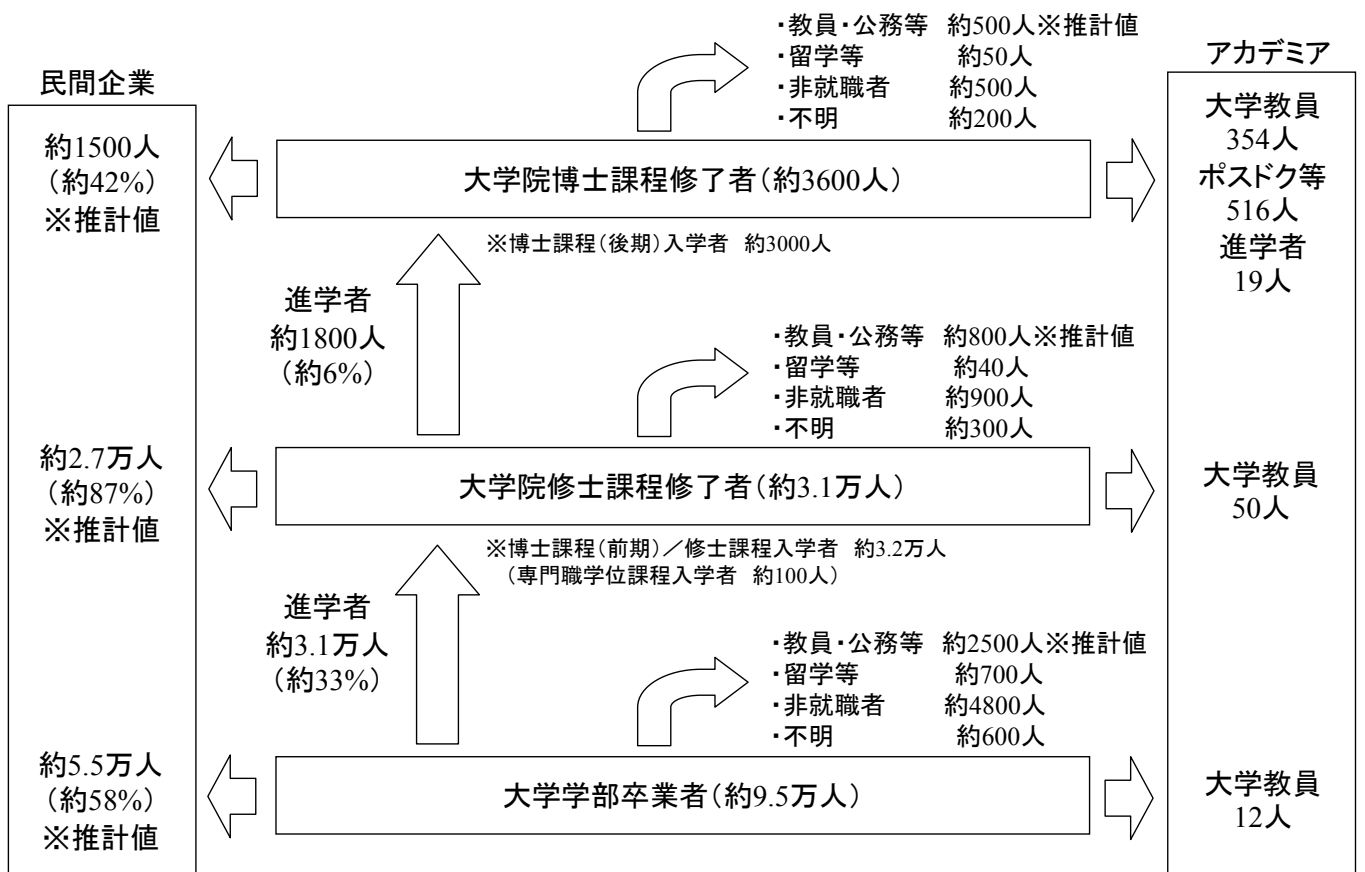
※平成20年度学校基本調査(文部科学省)及び平成19年度大学院活動状況調査(文部科学省大学振興課)より作成(一部推計)

③理学



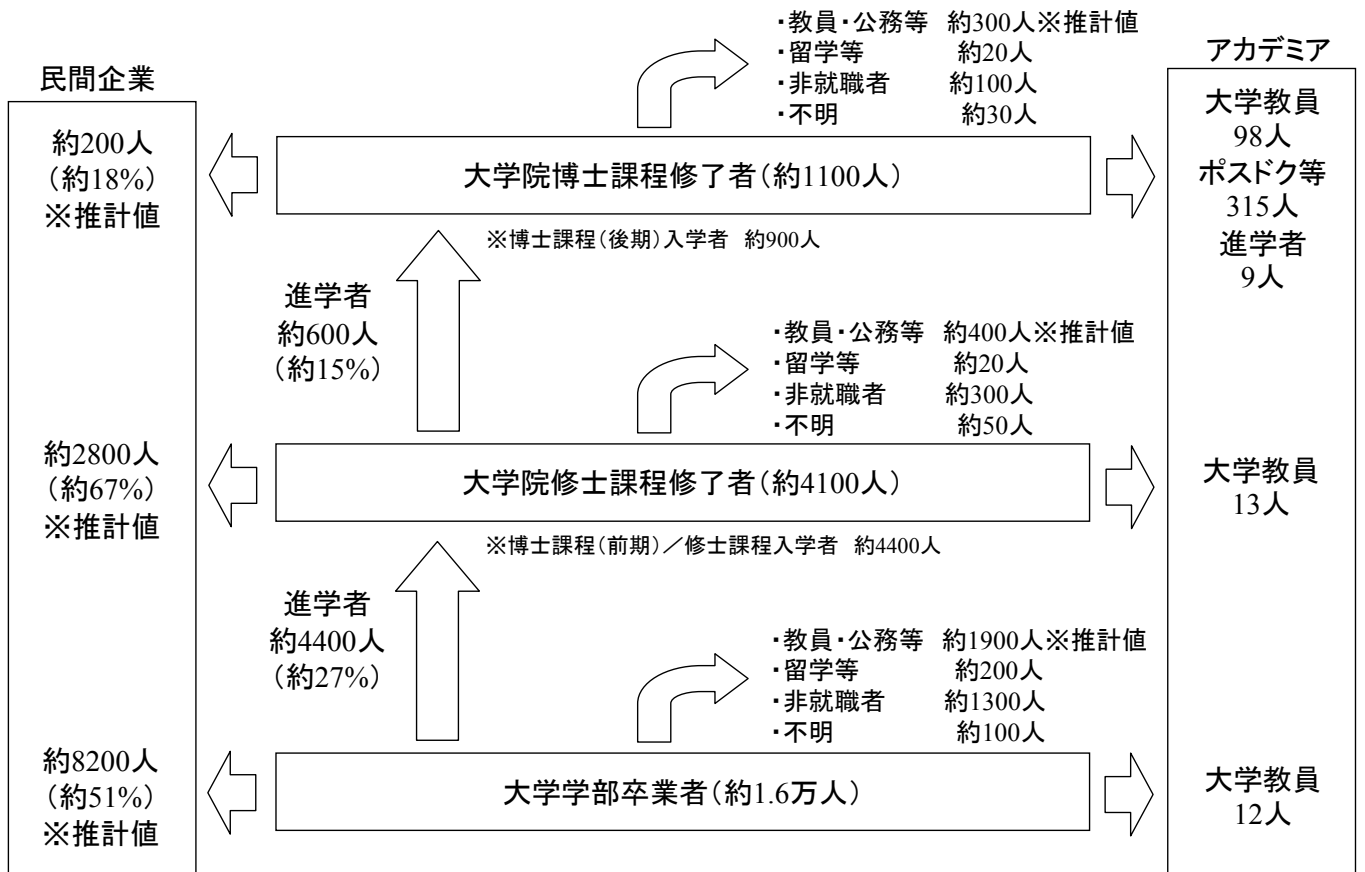
※平成20年度学校基本調査(文部科学省)及び平成19年度大学院活動状況調査(文部科学省大学振興課)より作成(一部推計)

④工学



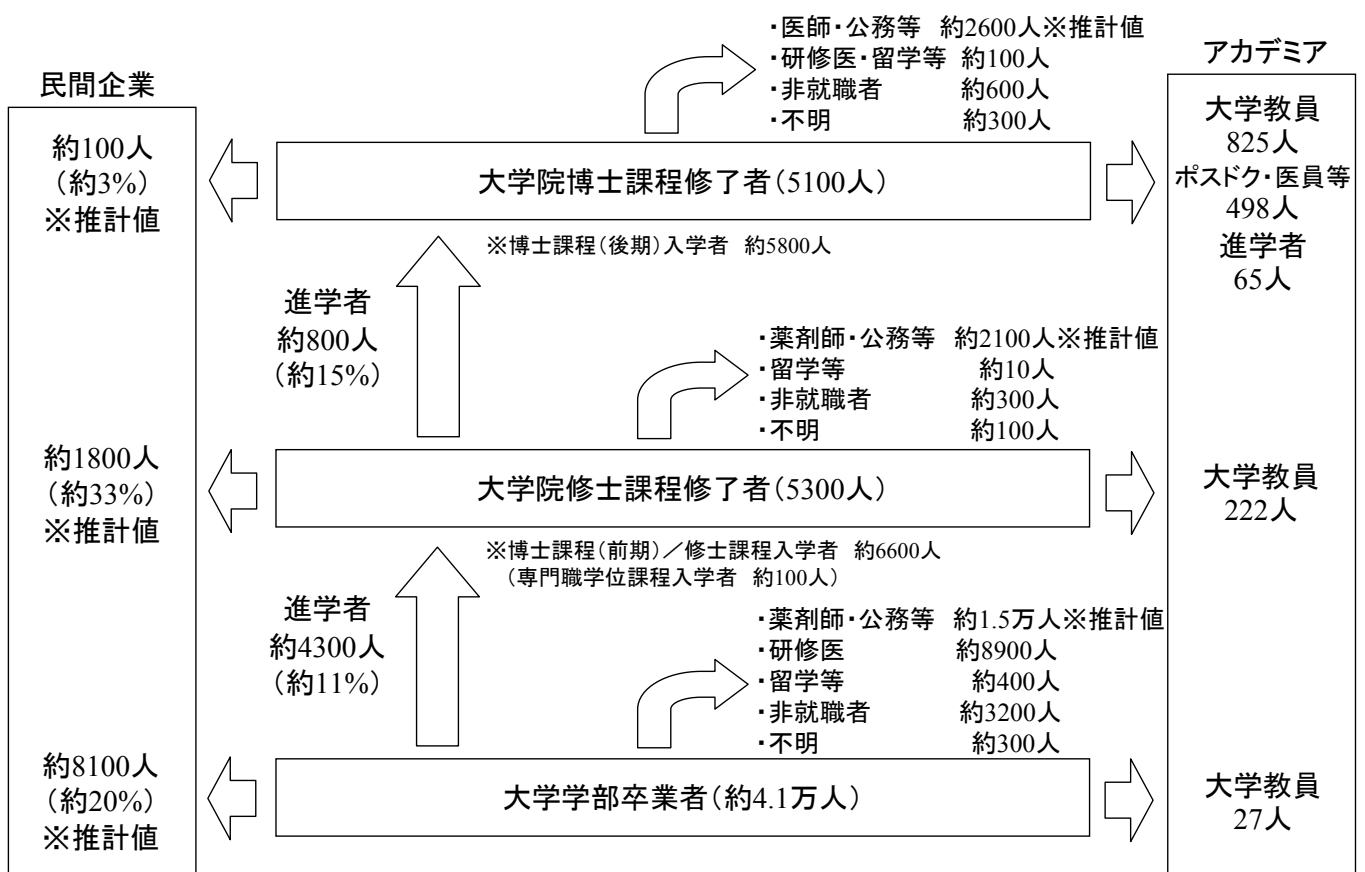
※平成20年度学校基本調査(文部科学省)及び平成19年度大学院活動状況調査(文部科学省大学振興課)より作成(一部推計)

⑤農学



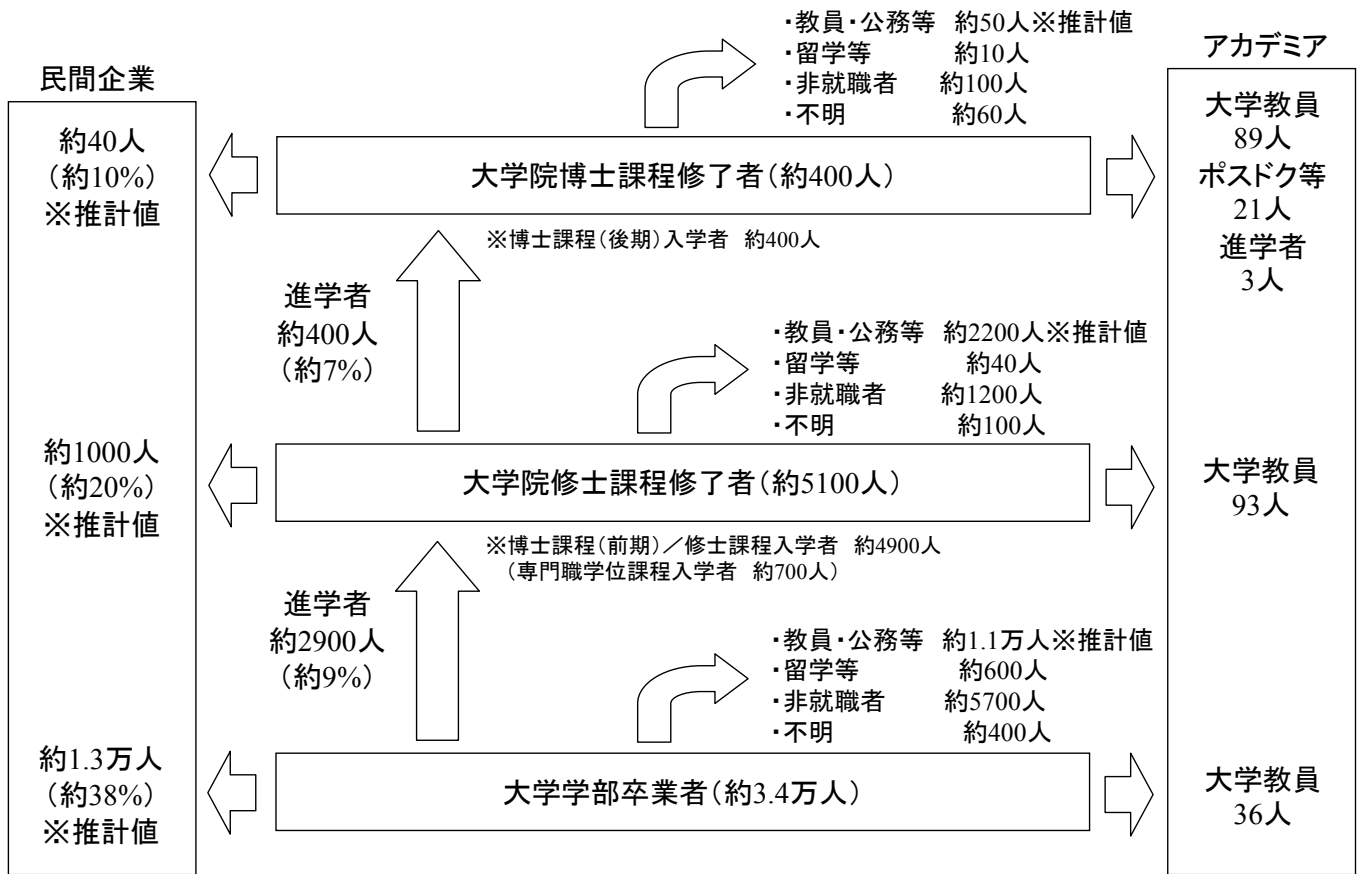
※平成20年度学校基本調査(文部科学省)及び平成19年度大学院活動状況調査(文部科学省大学振興課)より作成(一部推計)

⑥保健

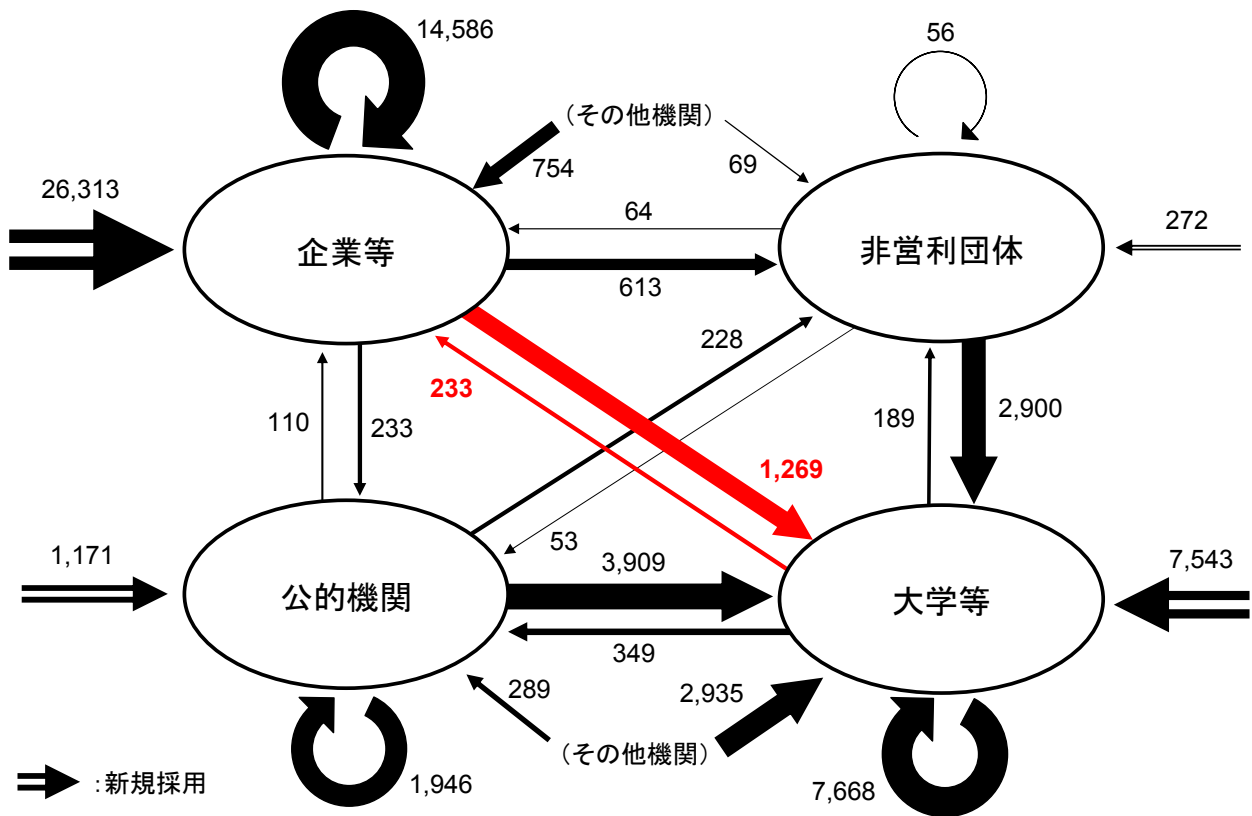


※平成20年度学校基本調査(文部科学省)及び平成19年度大学院活動状況調査(文部科学省大学振興課)より作成(一部推計)

⑦教育



2-(3) 我が国の大学、企業、公的研究機関間の人材異動の実態

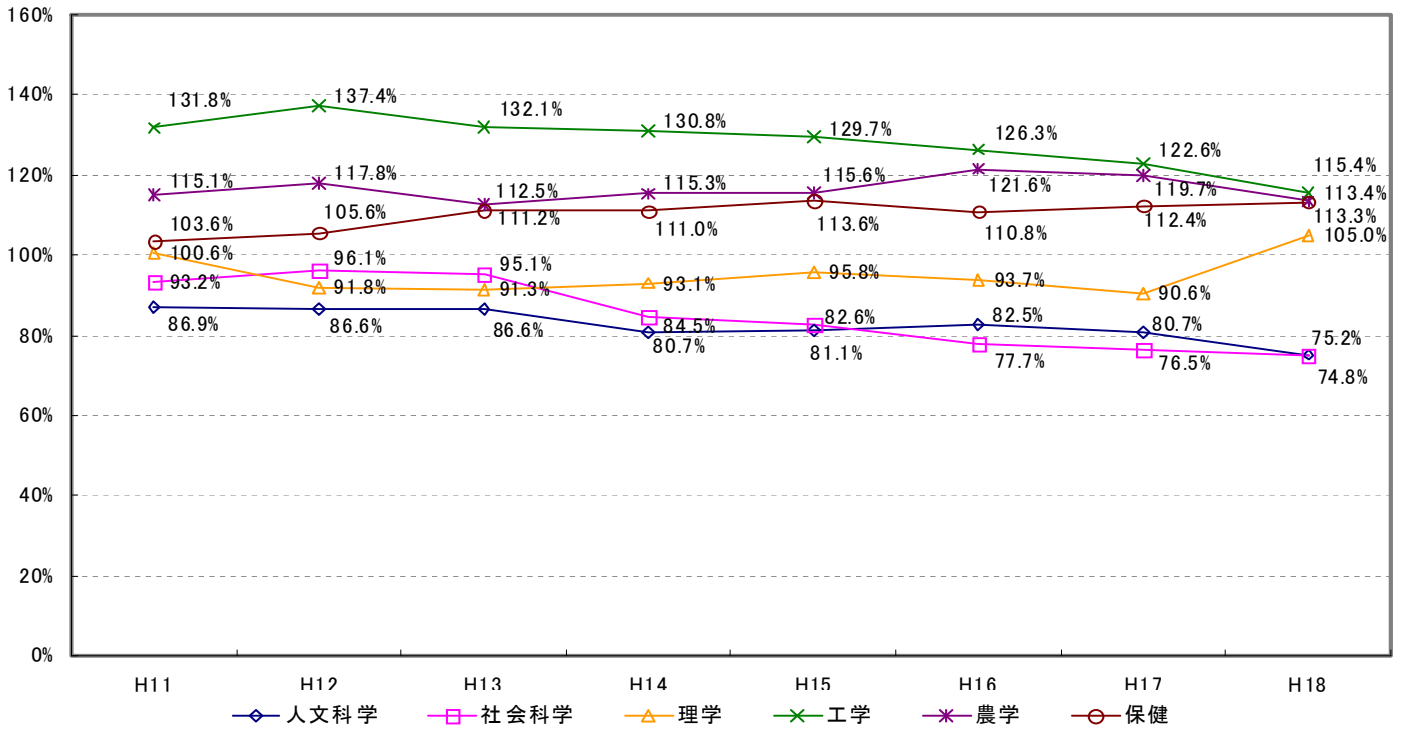


出典: 平成20年科学技術研究調査(総務省統計局)より作成

2-(4) 修士課程入学者充足率の推移(分野別)

修士課程の入学者充足率（＝入学者／入学定員）は分野によっては低下傾向にあり、平成19年度においては人文、社会科学分野の入学者充足率が8割以下となっている。

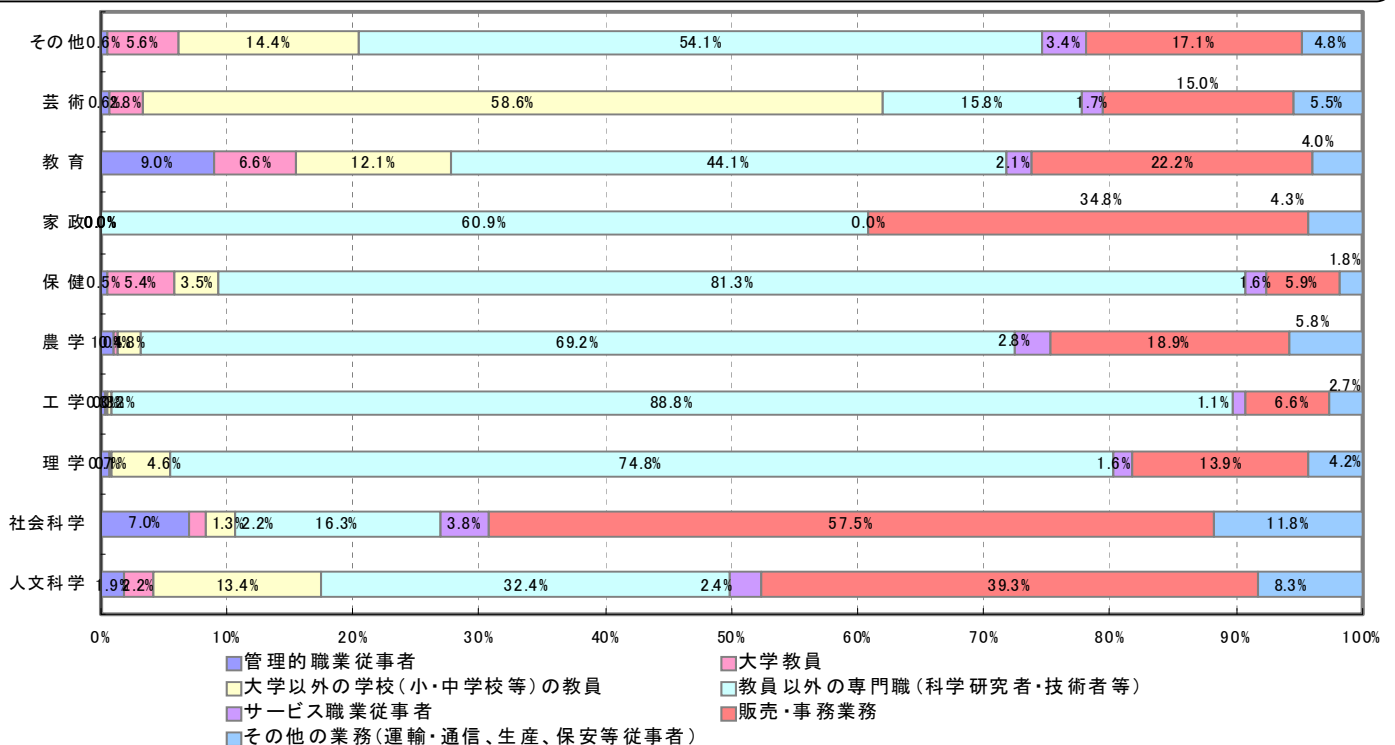
※ 「教育」・「芸術」・「家政」・「その他」分野は修了者が比較的小さいことから省略



(出典) 「学校基本調査」(文部科学省)、「全国大学一覧」(財団法人文教協会)

2-(5) 修士課程修了後の就職先(分野別・職業別)

理工農、保健分野においては博士課程修了後、技術者等として専門的・技術的職業に従事する者の割合が高く、人社系分野においては販売・事務業務に従事する者の割合が高い。



※ 専門的・技術的職業従事者には、教員、科学研究者、技術者、その他専門職を含む。

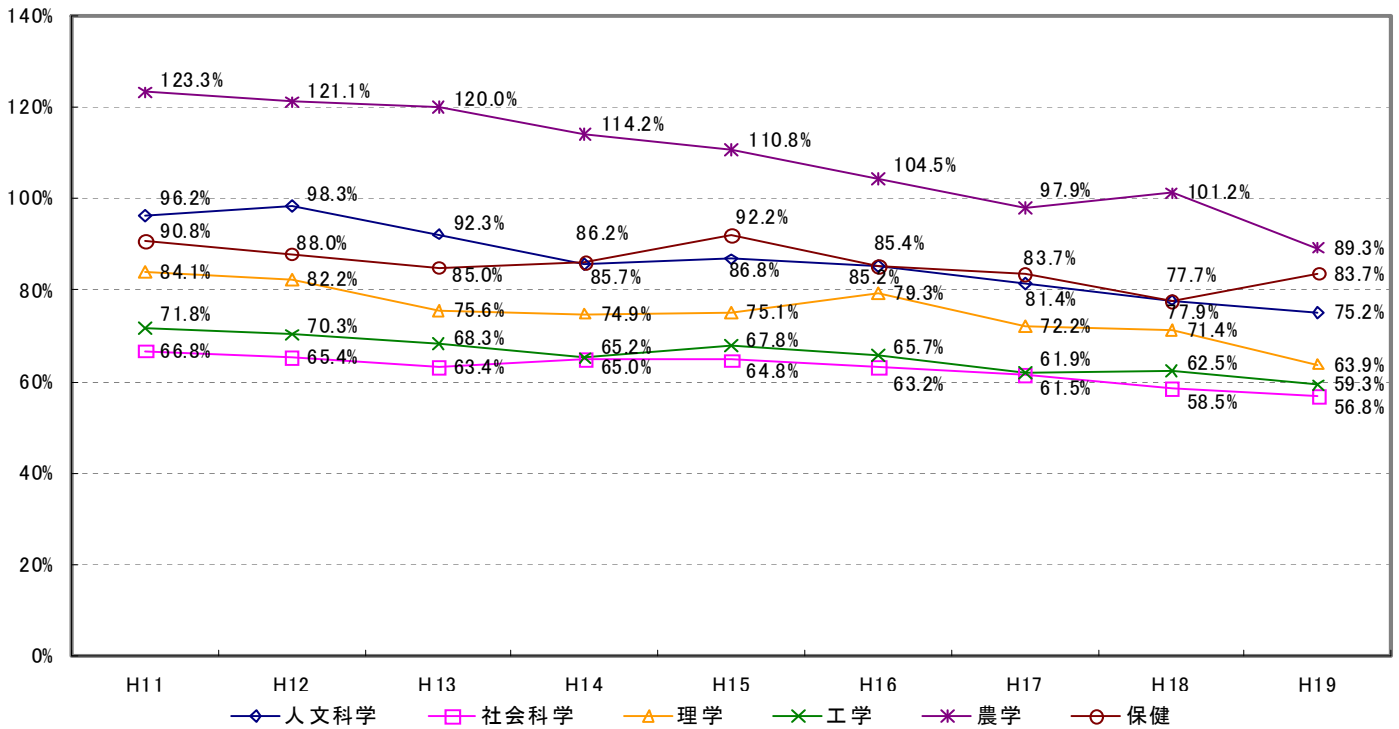
※ 満期退学者を含む。

(出典) 「平成20年度学校基本調査」(文部科学省)

2-(6) 博士課程入学者充足率の推移(分野別)

博士課程の入学者充足率(=入学者/入学定員)は全体的に低下傾向にあり、平成19年度においては全ての分野の入学者充足率が9割以下となっている。

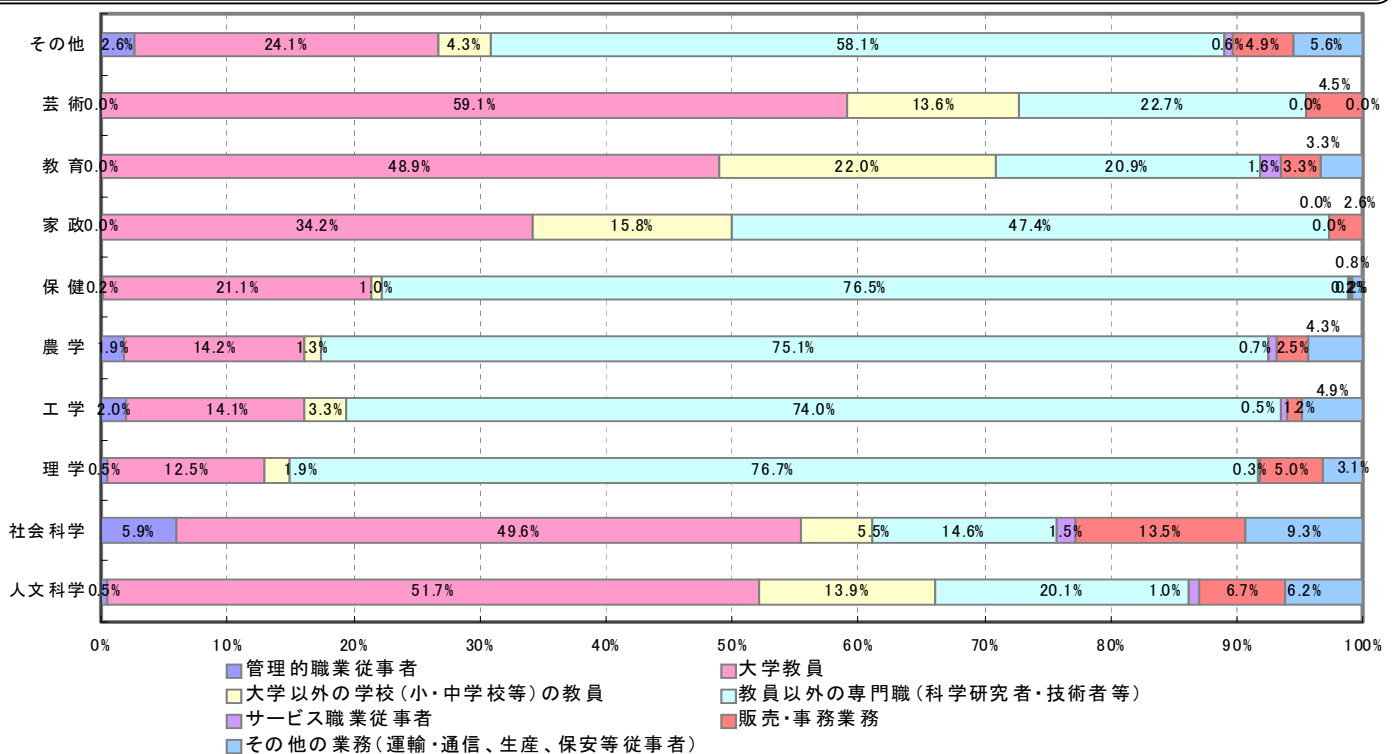
※ 「教育」・「芸術」・「家政」・「その他」分野は修了者が比較的少ないことから省略



(出典) 「学校基本調査」(文部科学省)、「全国大学一覧」(財団法人文教協会)

2-(7) 博士課程修了後の就職先(分野別・職業別)

理工農・保健分野においては博士課程修了後、大学教員以外の専門的・技術的職業に従事する者の割合が高く、人社系分野においては大学以外も含めて教員になる者の割合が高い。



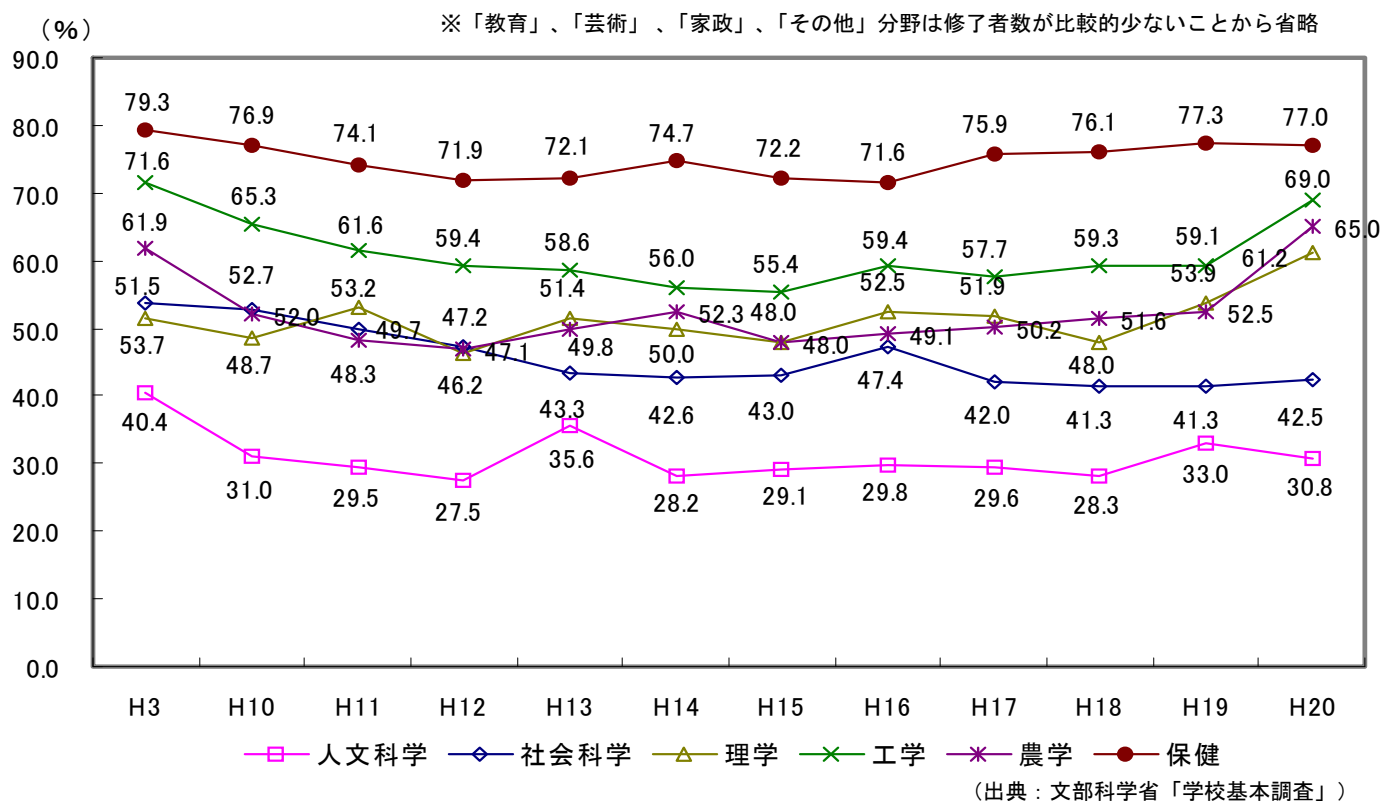
※ 専門的・技術的職業従事者には、教員、科学研究者、技術者、その他専門職を含む。

※ 満期退学者を含む。

(出典) 「平成20年度学校基本調査」(文部科学省)

2-(8) 博士課程修了者の就職率の推移(分野別)

「人文科学」、「社会科学」分野の就職率が他の分野と比較して低い状況は、近年継続して見られる傾向。



2-(9) 博士課程修了者数及び就職者数(分野別)

「芸術」(14.7%)、「人文科学」(30.8%)、「社会科学」(42.5%)分野は他の分野と比較して就職率が低い。

■ 平成20年度のデータ

	修了者数(人)	就職者数(人)	就職率
人文科学	1,358	418	30.8%
社会科学	1,238	526	42.5%
理学	1,610	986	61.2%
工学	3,636	2,508	69.0%
農学	1,065	692	65.0%
保健	5,074	3,907	77.0%
教育	356	182	51.1%
芸術	150	22	14.7%
家政	59	38	64.4%
その他	1,735	1,009	58.2%
合計	16,281	10,288	63.2%

(出典：文部科学省「学校基本調査」)

2-(10) 博士課程修了者等の進路の状況

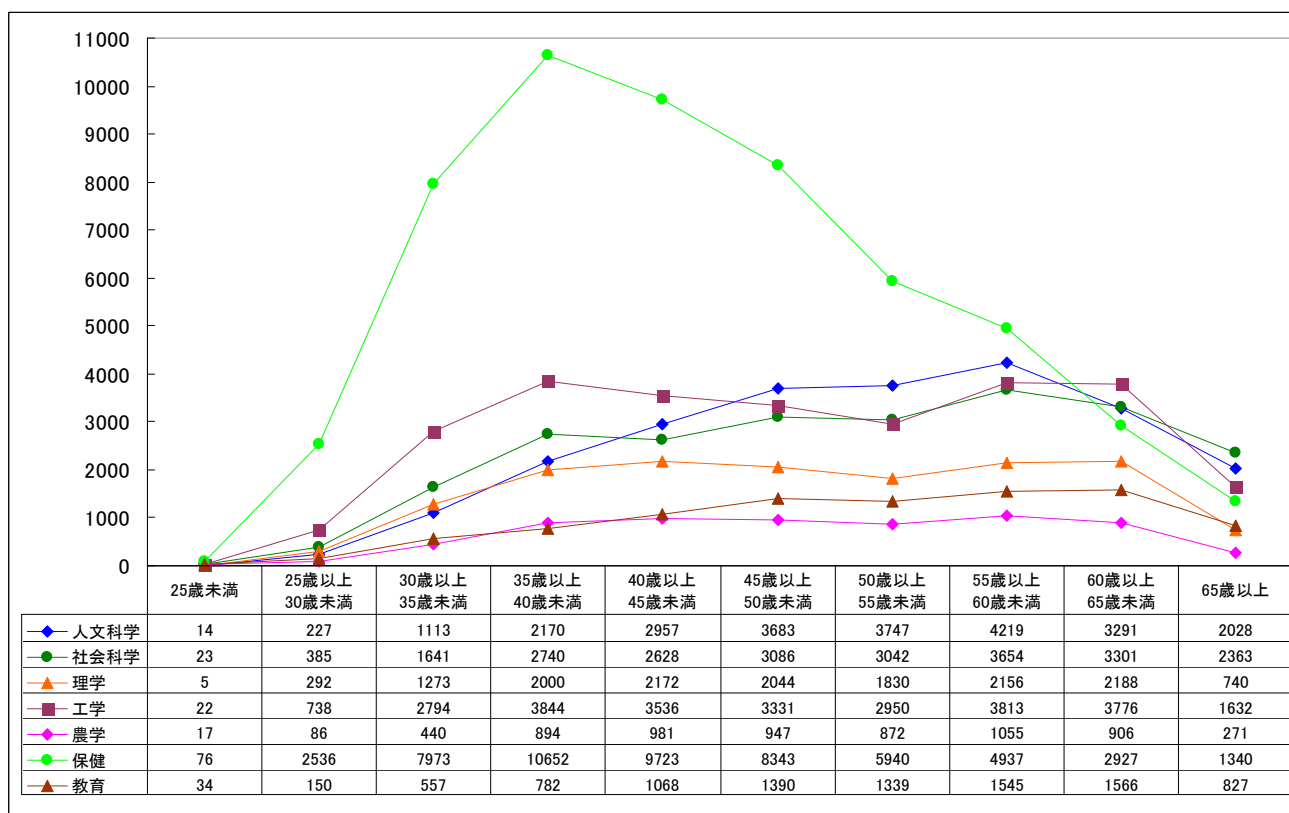
■ 平成20年度のデータ

区分	進路別		進学者	就職者							左記以外の者	死亡・不詳の者
	修了者等	うち学位取得者		専門的・技術的職業				その他				
				研究者	技術者	教員	その他					
合計	16,281	16,086	146	10,288	9,492	2,459	1,800	2,564	2,669	796	4,278	1,569
人文科学	1,358	1,348	10	418	358	24	4	274	56	60	589	341
社会科学	1,238	1,205	24	526	367	46	10	290	21	159	444	244
理学	1,610	1,583	26	986	898	427	295	142	34	88	483	115
工学	3,636	3,617	12	2,508	2,294	775	1,050	438	31	214	885	231
農学	1,065	1,056	3	692	627	375	117	107	28	65	339	31
保健	5,074	5,009	49	3,907	3,851	466	113	863	2,409	56	855	263
教育	356	353	0	182	167	14	1	129	23	15	117	57
芸術	150	149	0	22	21	0	2	16	3	1	95	33
家政	59	58	1	38	37	13	0	19	5	1	16	4
その他	1,735	1,708	21	1,009	872	319	208	286	59	137	455	250

注1) 「修了者等」には、所定の年限以上在学し所定の単位を取得したが、学位を取得せず退学した者（いわゆる満期退学者）を含む。
 注2) 「左記以外の者」には、専修学校・外国の学校等入学者、一時的な仕事に就いた者、臨床研修医（予定者を含む）などが含まれる。
 注3) 進学者であり、かつ就職をしている者については就職者として算出している。

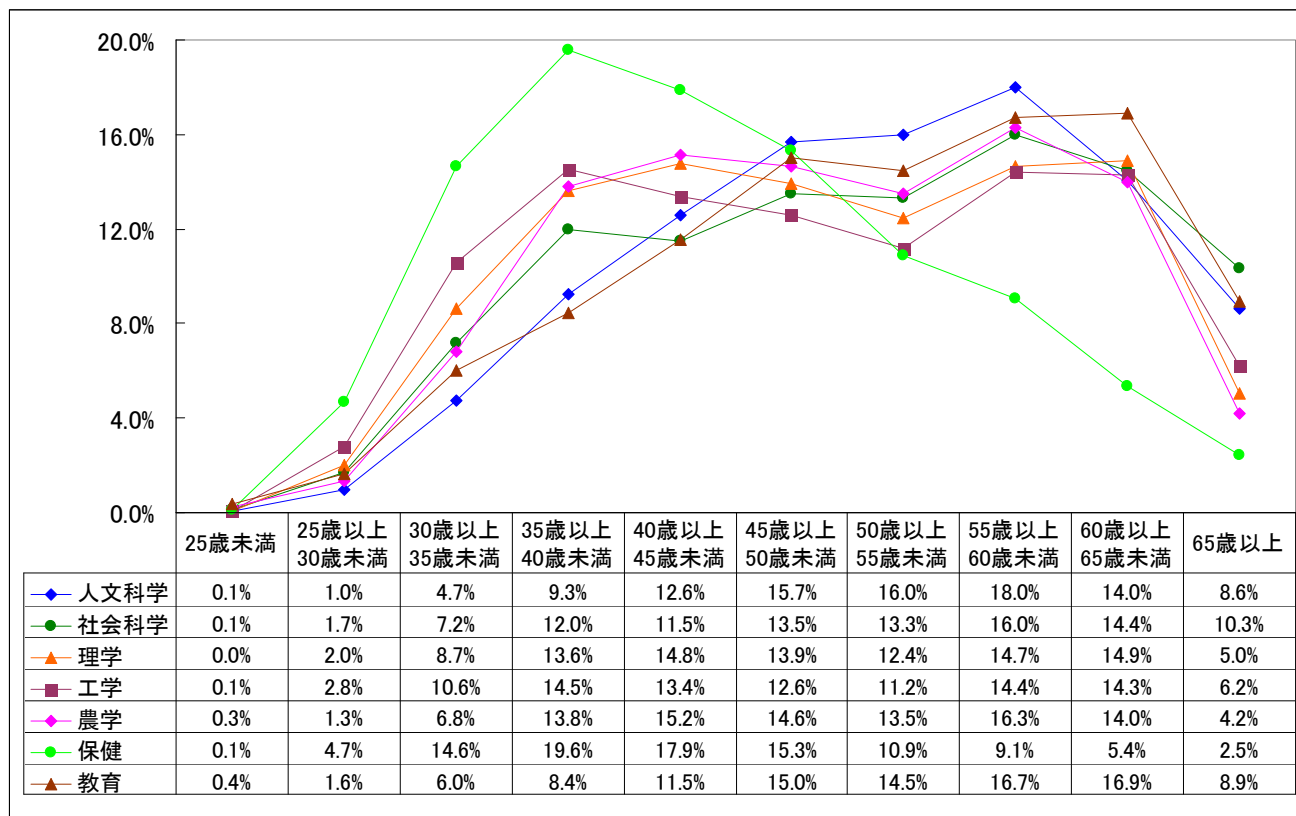
(出典：文部科学省「学校基本調査」)

2-(11) 専門分野別・年齢構成別の大学教員数(人数)



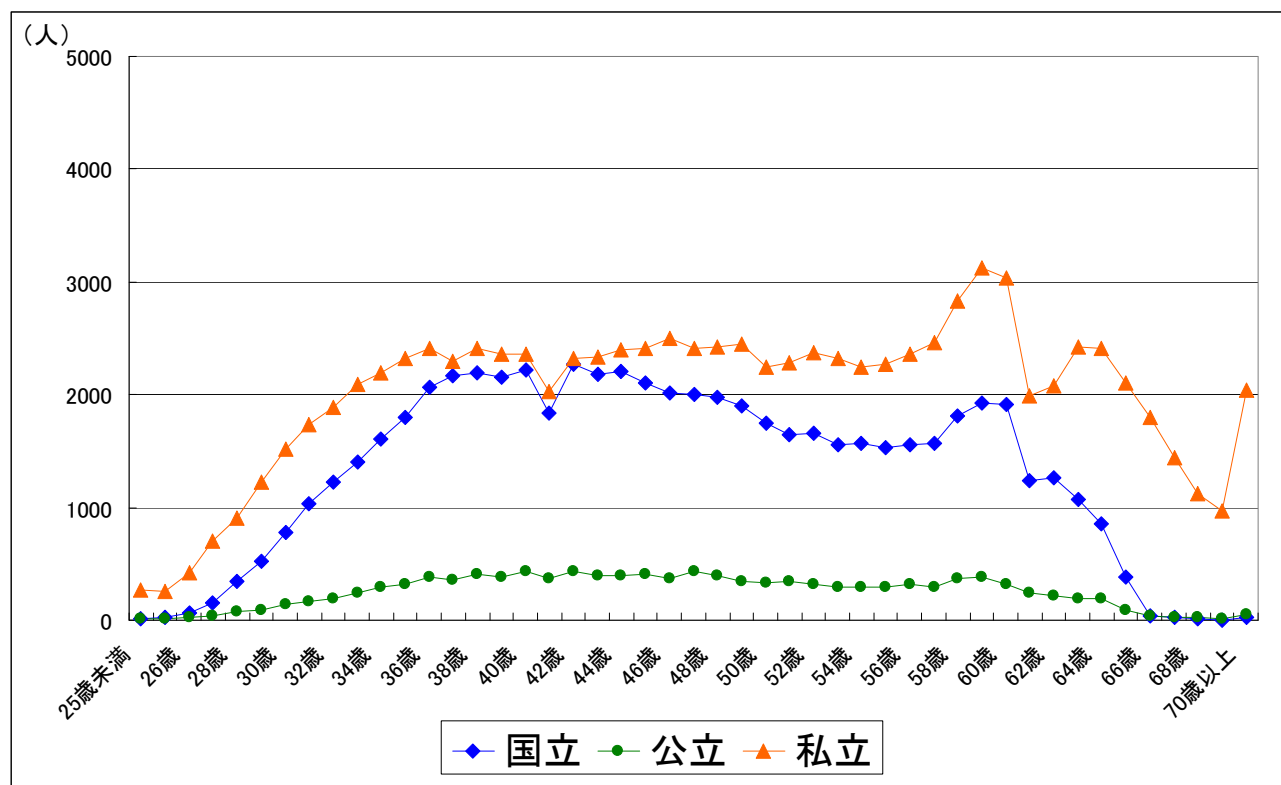
出典：平成19年度学校教員統計調査(文部科学省)

2-(12) 専門分野別・年齢構成別の大学教員数(構成比)



出典: 平成19年度学校教員統計調査(文部科学省)

2-(13) 国公私別・年齢構成別の大学教員数



出典: 平成19年度学校教員統計調査(文部科学省)

2-(14)大学院教育の実質化状況について

平成21年度現在で大学院を置く国公立大学（597大学）に対してアンケートを実施した結果は以下の通り

○調査結果の概要（6月10日時点の回収率約95%）

□ 人材の養成に関する目的その他の教育上の目的の学則等への規定状況

- ・全学的な目的を定めている大学 **84.5%**（国立:94.1%、公立:82.8%、私立:83.0%）
- ・研究科ごとに目的を規定している大学 **78.8%**（国立:90.6%、公立:65.5%、私立:78.5%）
- ・専攻ごとに目的を規定している大学 **53.8%**（国立:78.8%、公立:37.9%、私立:51.2%）

□ 各国公立大学における具体的な取組状況

【人材養成目的の明確化】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
課程において身に付けさせる知識・技能を明確にしている	実施している	93.3%	98.8%	93.1%	92.2%
	〔うち一部の研究科等においてのみ実施〕	(4.8%)	(8.2%)	(5.2%)	(4.0%)
	実施していない	6.2%	1.2%	6.9%	7.1%

【目的に沿った体系的な教育課程の編成】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
学位授与の方針に基づき、知識・技能をそれぞれの学年で修得すべきレベルに応じて計画的に配置し、体系的に身に付けさせるよう教育課程を編成している	実施している	90.3%	96.5%	87.9%	89.3%
	〔うち一部の研究科等においてのみ実施〕	(12.6%)	(25.9%)	(13.8%)	(9.7%)
	実施していない	9.2%	2.4%	12.1%	10.2%
インターンシップ（企業等と連携したの現地研修、プロジェクト参画）を実施している	実施している	52.4%	85.9%	51.7%	45.7%
	〔うち一部の研究科等においてのみ実施〕	(26.9%)	(56.5%)	(31.0%)	(20.4%)
	実施していない	47.3%	14.1%	48.3%	53.8%
キャリア教育等を通じて、キャリアパス形成に関する指導を実施している	実施している	42.1%	75.3%	46.6%	34.8%
	〔うち一部の研究科等においてのみ実施〕	(21.8%)	(50.6%)	(20.7%)	(16.1%)
	実施していない	56.8%	24.7%	53.4%	63.7%
海外の大学や研究機関等と連携した（学生交流、教員招聘等による）教育研究を実施している	実施している	62.8%	96.5%	67.2%	55.5%
	〔うち一部の研究科等においてのみ実施〕	(25.7%)	(45.9%)	(19.0%)	(22.5%)
	実施していない	36.3%	2.4%	32.8%	43.6%
セミナー、学会発表、技能・資格試験等を通じて英語による論文作成能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等の実践的能力を養成している	実施している	60.5%	90.6%	62.1%	54.3%
	〔うち一部の研究科等においてのみ実施〕	(24.1%)	(49.4%)	(22.4%)	(19.2%)
	実施していない	38.9%	9.4%	37.9%	45.0%

【目的に沿った体系的な教育課程の編成】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
学部生への講義補助や質疑応答対応を通じて、学生に多角的な教育能力を身に付けさせている	実施している	75.9%	95.3%	81.0%	71.3%
	{ うち一部の研究科等 においてのみ実施 }	(20.2%)	(31.8%)	(20.7%)	(17.8%)
	実施していない	23.2%	3.5%	19.0%	27.7%
社会人を対象とした教育プログラム(短期在学コース、学位以外の修了証を授与するコース等)を実施している	実施している	48.7%	76.5%	46.6%	43.4%
	{ うち一部の研究科等 においてのみ実施 }	(27.3%)	(56.5%)	(27.6%)	(21.3%)
	実施していない	50.3%	23.5%	53.4%	55.2%
教育の標準化、高度化のために、教育研究の成果を活かして教材開発を行っている	実施している	42.3%	83.5%	37.9%	34.6%
	{ うち一部の研究科等 においてのみ実施 }	(21.6%)	(55.3%)	(13.8%)	(15.9%)
	実施していない	56.6%	16.5%	62.1%	64.0%

【教員組織の整備等】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
教員の業務を支援し、協働で業務の推進に取り組むことのできる、専門的知識を有する大学職員を雇用し、教員が教育研究に専念できる体制を構築している	実施している	43.7%	72.9%	32.8%	39.3%
	{ うち一部の研究科等 においてのみ実施 }	(20.9%)	(50.6%)	(10.3%)	(16.4%)
	実施していない	55.6%	27.1%	67.2%	59.7%

【FDの実施体制等】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
授業及び研究指導の改善を図るための組織的な研修及び研究(FD)を実施している	実施している	86.5%	97.6%	93.1%	83.4%
	{ うち一部の研究科等 においてのみ実施 }	(11.0%)	(16.5%)	(13.8%)	(9.5%)
	実施していない	12.7%	2.4%	6.9%	15.6%

【成績評価基準等の明示】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
厳格な成績評価と適切な研究指導により、標準修業年限内に学位を授与することのできる体制を整備している	実施している	93.3%	96.5%	91.4%	92.9%
	{ うち一部の研究科等 においてのみ実施 }	(8.0%)	(14.1%)	(10.3%)	(6.4%)
	実施していない	6.4%	3.5%	8.6%	6.6%

【学生に対する修学上の支援】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
学位取得までのトータルコストが予め明示されているとともに、奨学金等の経済的支援の内容が予め周知されている	実施している	87.6%	92.9%	79.3%	87.7%
	{ うち一部の研究科等 においてのみ実施 }	(9.4%)	(24.7%)	(10.3%)	(6.2%)
	実施していない	11.9%	7.1%	20.7%	11.6%
TA・RA等による優秀な学生への経済的支援を行っている	実施している	75.9%	97.6%	84.5%	70.4%
	{ うち一部の研究科等 においてのみ実施 }	(13.3%)	(17.6%)	(24.1%)	(10.9%)
	実施していない	23.4%	1.2%	15.5%	28.9%
就学困難学生に対する経済的支援を行っている	実施している	75.9%	96.5%	81.0%	71.1%
	{ うち一部の研究科等 においてのみ実施 }	(12.0%)	(23.5%)	(13.8%)	(9.5%)
	実施していない	23.5%	3.5%	19.0%	28.2%

【学生に対する修学上の支援】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
留学生受入れや国際関係業務への対応のため、事務局体制の国際化を図っている	実施している	58.8%	89.4%	48.3%	54.0%
	〔うち一部の研究科等 においてのみ実施〕	(15.8%)	(31.8%)	(10.3%)	(13.3%)
	実施していない	40.5%	9.4%	51.7%	45.3%

【自己点検・評価体制の整備等】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
専門分野別自己点検・評価を実施している	実施している	76.8%	90.6%	82.8%	73.2%
	〔うち一部の研究科等 においてのみ実施〕	(15.2%)	(32.9%)	(15.5%)	(11.6%)
	実施していない	22.8%	9.4%	17.2%	26.3%
専門分野別第三者評価を実施している	実施している	59.5%	82.4%	65.5%	54.0%
	〔うち一部の研究科等 においてのみ実施〕	(18.4%)	(45.9%)	(20.7%)	(12.6%)
	実施していない	39.8%	17.6%	34.5%	45.0%
教員に対して教育面での能力や業績の公正な評価を行い、評価結果を給与等の処遇に反映している	実施している	38.2%	87.1%	34.5%	28.9%
	〔うち一部の研究科等 においてのみ実施〕	(10.8%)	(31.8%)	(6.9%)	(7.1%)
	実施していない	61.2%	12.9%	65.5%	70.4%

【大学院進学準備における審査】		全体	国立大学	公立大学	私立大学
大学院の進学に関し、進学者選抜方針が明示され、同方針に基づき、学生の意欲や能力を適切に評価している	実施している	82.5%	90.6%	75.9%	81.8%
	〔うち一部の研究科等 においてのみ実施〕	(11.2%)	(22.4%)	(10.3%)	(9.0%)
	実施していない	16.5%	5.9%	24.1%	17.5%

2-(15)英国のQAAの「Framework for Higher Education」における学士力・修士力・博士力

学士 (優良 学士)	<p>①優良学位は、以下のことができる者に与えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最小限の最先端の研究分野などについての包括的かつ詳細な知識の獲得を含め、自分の研究分野に関する必要な事項について体系的に理解している ・研究分野について、分析と調査のための正確で確立された技術を行使できる ・以下のことが概念的に理解できる(①最先端の研究分野に関する考察や技術を活用して、議論を工夫したり、継続したり、課題を解決したりできること、②研究分野における現在の研究や先行研究について、特定の観点を述べたり、コメントをつけたりできること) ・知識の不確実性、曖昧性及び限界があることをありがたいと思える ・自らの学修を管理でき、学術的なレビューや第一次資料(研究記事や研究分野に適当な原資料)を活用できる <p>②この学位を持っている者は、以下のことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの知識や理解を再検討し、統合し、拡大し、適用するとともに、研究プロジェクトを主導し、実施するための方法や技術を適用できる ・ある課題に対して判断するとともに、課題を解決できるような適切な問題設置を行うために、議論、仮説、抽象的概念及びデータを批判的に評価できる ・専門家・非専門家に対して、情報、理念、課題及び解決策について伝達できる <p>③この学位を持っている者は、雇用に必要な資質や転換可能な技術を持っている(イニシアティブと責任感、複雑で予測不可能な状況に置ける判断力、職業等のために適切なトレーニングを積むために必要となる能力)</p>
修士	<p>①修士の学位は、以下のことができる者に与えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの最先端の学術研究を含め、現代の課題や新しい洞察についての知識や批判的な発見について体系的に理解している ・自らの研究や先行研究に必要な技術について包括的に理解している ・研究分野における知識を創造したり解釈するために使用される研究や調査についての技術を確立するため、実践的な理解を伴う知識の応用における独創性 ・以下のことが概念的に理解できる(①研究分野に関する現在の研究や先行研究について批判的に評価できること、②方法論を再検討したり、批判論を進展させたり、適切に新しい仮説を提案したりできること) <p>②この学位を持っている者は、以下のことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な課題を体系的かつ創造的に扱うことができ、完全なデータがない中においても健全な判断ができ、自らの結論について専門家・非専門家に対して明確に伝えることができる ・課題に取組み、解決するにあたり自主性と創造性を発揮でき、専門家としての高いレベルで自律的に業務を計画し、実施していくことができる ・自らの知識や理解力をさらに向上し続け、新しいスキルを高いレベルに発展させることができる <p>③この学位を持っている者は、雇用に必要な資質や転換可能な技術を持っている(イニシアティブと責任感、複雑で予測不可能な状況に置ける判断力、継続的な専門的能力の発展のために自立した学修能力)</p>
博士	<p>①博士の学位は、以下のことができる者に与えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルの研究や他の先行研究を通じて、ピア・レビューを満ち、最先端の研究を含め、公表に値するような品質の新しい知識の創造及び解釈ができる ・多くの学術的な研究や職業的な実践に関する最先端の知識について、体系的に修得し、理解している ・新しい知識の創造及び最先端の研究についての応用や理解のためのプロジェクトを概念化し、計画し、実施できるとともに、予測できないような課題の観点からプロジェクトデザインを調整できるような包括的な能力がある ・研究や先行的な学術調査に関し応用的な技術を詳しく理解している <p>②この学位を持っている者は、以下のことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な分野における複雑な課題について、完全なデータがない中においても、良識のある判断ができ、自らの考えや結論を専門家・非専門家に対して明確かつ効果的に伝えることができる ・新しい技術、考え又はアプローチの開発に多大な貢献をしながら、先進的なレベルで、基礎研究や応用研究の発展について継続して取り組むことができる <p>③この学位を持っている者は、雇用に必要な資質や転換可能な技術を持っている(専門的な環境において複雑かつ予測不可能な状況にあっても、雇用に必要となる自己責任と高い自律性の発揮、及びそのために必要となる品質と転換可能な技術)</p>

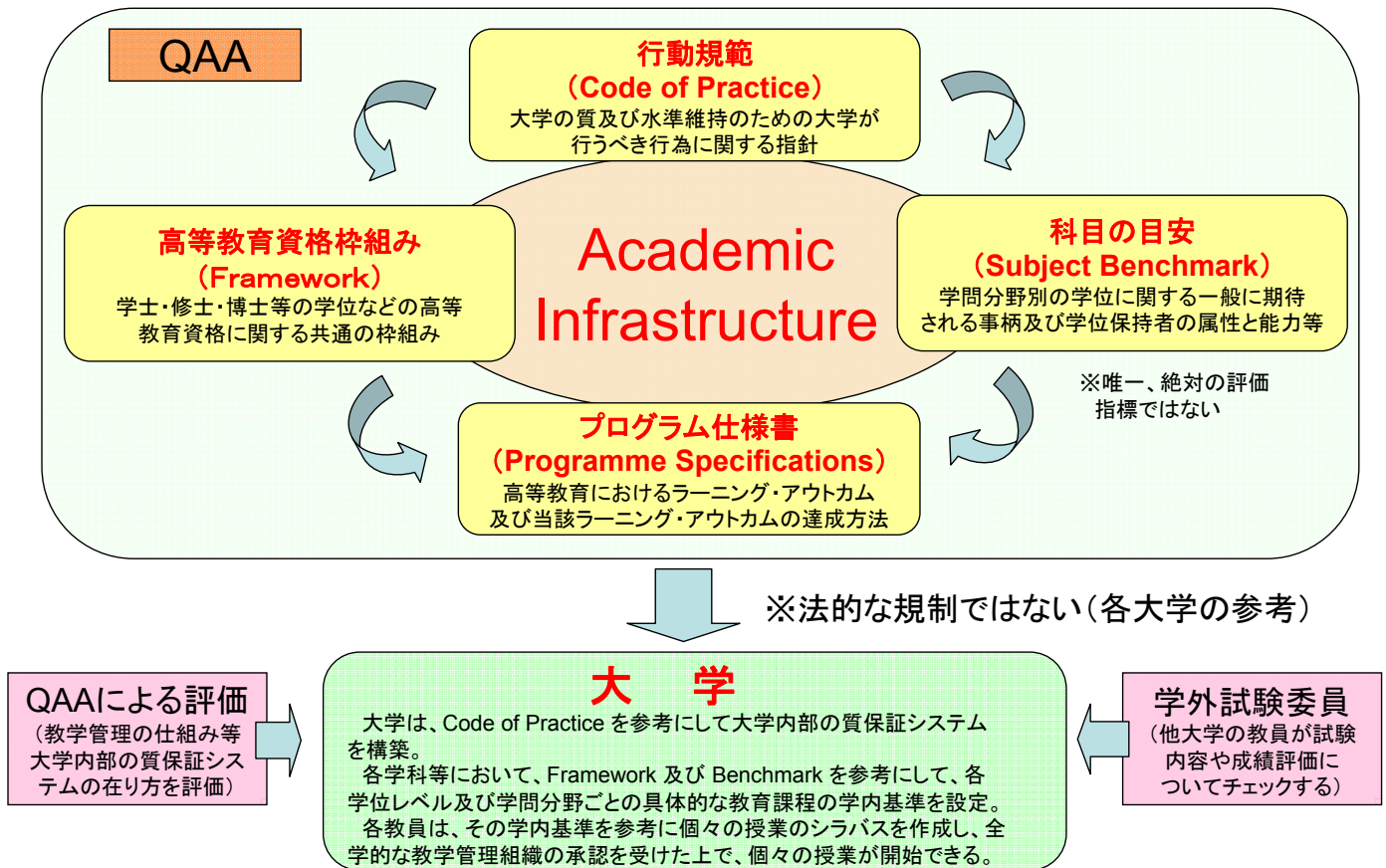
2-(16)オーストラリアの「Qualifications Framework」における学士力・修士力・博士力

学士	<ul style="list-style-type: none"> ・系統的かつ一貫性のある一定の知識、基底となる原則や概念、並びにコミュニケーション能力及び課題解決能力を獲得している ・一定範囲の材料から、新しい情報、概念及び証拠を研究したり、理解したり、評価したりできるような資質・能力を発展させている ・職業的な観点を含めて、修得した知識・技能の検討、統合、拡大及び適用をするための能力を発展させている ・自主的・自律的な生涯学習能力の土台がある ・就職や進学等のために適切な対人関係能力・集団適用能力がある
修士	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する分野に関する研究や専門的能力に関する習熟度及び俯瞰できる能力の範囲が、コースワークと研究のコンビネーションによって培われる特定の専門的・職業的知識技能の獲得・改善から、研究を通じた特定領域の知識に関する深い理解力の獲得にまで至っている ・理論的・応用的な専門的課題に関して、適切な証拠や高度な知識を提供できる ・プロジェクト作業並びに一定の専門的能力や研究に関する計画及び実施を通じて、分析、厳格な評価及び専門的に必要な能力において高い能力を披露できる ・複雑な問題を解いたり、徹底的かつ独創的に思考するために、新しい状況に対応して、知識・技能を応用し、創造性と柔軟性を発揮できる
博士	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい知識、並びに既存の知識に関する重要で独創的な適用、応用及び解釈を通じて、知識そのものに対して重要で独創的な貢献ができる ・文献、実験及び解釈に関する創造的な作業、組織的なアプローチ又は専門的な理論や実践に関する先進的かつ洞察的で幅広く重要な考察について、包括的で洞察的なレビューができる ・独創的な研究プロジェクトや、高いレベルでの独創性と品質をもって、職業に関する実践についての実体的内容に関するプロジェクトを実施できる ・国際的基準に対する外部試験に沿って、内容があって良く秩序だった、論文、非印刷論文又はポートフォリオについてのプレゼンテーションができる

2-(17)EUの「European Qualifications Framework」における学士力・修士力・博士力

学士	<ul style="list-style-type: none"> ①知識 <ul style="list-style-type: none"> ・理論や原則に対する批判的な理解を伴った、仕事又は学習の分野における進歩的な知識を持っている ②技能 <ul style="list-style-type: none"> ・専門的スキルや技術革新的能力を自在に使いこなせることを証明し、かつ特殊な仕事及び学習の分野における複雑で予測不可能な問題を解決するのに必要となる進歩的なスキルを持っている ③能力 <ul style="list-style-type: none"> ・複雑な専門的あるいは職業的な活動又はプロジェクトを監督し、予測不可能な仕事又は学習背景において決定責任を引き受けることができる ・個人及び集団の職業上の発展に対する責任を引き受けることができる
修士	<ul style="list-style-type: none"> ①知識 <ul style="list-style-type: none"> ・部分的には仕事又は学習の分野における最先端の知識と結び付き、かつ技術革新的な思考的試み及び／又は研究の基盤となる、極めて特殊化された知識を持っている ・ある仕事又は学習の分野の問題に対して、また、様々な分野に共通する事項に対して批判的な意識を持っている ②技能 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな知識を獲得し、新たな方法を開発し、様々な分野の知識を統合する上で、研究及び／又は技術革新の分野における特殊化された問題解決スキルを持っている ③能力 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな戦略的アプローチを必要とする複雑で予測不可能な仕事又は学習背景を監督し、形成することができる ・専門的知識及び職業実践への寄与及び／又はチームの戦略的なパフォーマンスの反省に対する責任を引き受けることができる
博士	<ul style="list-style-type: none"> ①知識 <ul style="list-style-type: none"> ・ある特定の仕事又は学習の分野、又は様々な分野に共通する先端知識を持っている ②技能 <ul style="list-style-type: none"> ・統合や評価を含め、研究及び／又は技術革新の分野における中心的な問題提起を解消し、また手元にある知識又は職業実践を拡大又は再定義するための最も先端的で特殊化されたスキル及び方法を身に付けている ③能力 <ul style="list-style-type: none"> ・仕事を含め、指導的な仕事又は学習背景における新たなアイデアや手法を開発するにあたり、相当の権威、技術革新能力、自律性、学術と職業の不可侵性、継続的な参加が認められる

2-(18) 英国のQAAのAcademic Infrastructureについて



2-(19) 英国・高等教育質保証機構(QAA)

「高等教育の質・水準の保証のための実施基準(Code of practice for the assurance of academic quality and standards in higher education, Sep.2004)」(抄) Part 1

(大学院のプログラム)

1 大学が行うべき措置

- 大学は、国内及び国際的に期待される内容に基づいて適正にプログラムを実施できるように処置を講じ、プログラムの学術的水準を保障する。
- 大学は、大学内に適用する行動規範を策定及び実施し、継続して見直しを行う。このような行動規範は、大学院の履修プログラムに關与する全ての学生とスタッフが簡単に入手できるようにしなければならない。その場合、大学は、学内及び学外のガイダンスを活用すべきである。このような規範は大学の教育の質を保障するメカニズムの不可欠な部分と見なされ、質を保証し、履修プログラムの学際的な水準を維持するうえで重要である。
- 大学は、適切な内外の指標及び目標に照らし、大学院の履修プログラムの適否を監視する。

2 教育研究環境

- 大学は、研究を行い、研究について学ぶことを支援し、質の高い研究が行われている環境に限定し、学生を受け入れる。

3 選抜・入学・導入教育

- 入学手続きは、明確で首尾一貫して適用するもので、機会の平等性を保証する。
- 適切な資格を有し、準備を整えた学生だけを履修プログラムに受け入れる。
- 入学許可の決定には、選抜と入学の手続きに関して指導、助言及びガイダンスを受けた大学のスタッフの少なくとも2人を関与させており、大学が、入学許可の方針に基づいて、バランスがある自律的な入学許可の決定がなされたかどうかを確認することができる。
- 学生のプログラム達成能力は、経済的援助の影響を受けることがあるため、大学は、学生がプログラムの期間を通じ十分な資金提供を受けることができるように確認することが望まれる。
- 大学院の履修プログラムに取り組んでいる学生の資格と責任を明確に定め、伝達すること。学生が、自ら研究を遂行するための学術環境及び社会環境をよく理解して研究を始めることができるように、大学は、学生に対して十分な情報を提供する。

4 学生の指導

- 大学は、効果的に学生を支援し、励まし、指導するための適切な技術と学科に関する専門的知識を有する指導者を任命する。
- すべての指導者は自らの役割に適切な専門知識を所持していることが必要である。個々の学生には、最低1人の主たる指導者を配置する。
- 学生には、その地理的条件に関係なく、プログラムを通してその指導者に接触し、指導者から助言とガイダンスを受け取る十分な機会が与えられる。
- 指導者と学生の両者が、学生の支援に向けた指導者の貢献と指導者の責任の限界をよく理解することができるように、両者がお互いの責任の範囲を十分に認識することが重要である。
- 指導者と学生は、お互いの中で、必要な交流の水準と質と量両面で、指導の実施に要する十分な時間とその内容について合意しなければならない。また、学生が助言またはガイダンスを必要とする場合、指導者は妥当な時間内にこれに応えることができなければならない。

「高等教育の質・水準の保証のための実施基準(Code of practice for the assurance of academic quality and standards in higher education, Sep.2004)」(抄) Part 2

(大学院のプログラム)

5 学生の学修と評価に関する措置

- ・ 学生が順調に進歩できるように提供する支援の一部として、定期的かつ体系的な交流を行うことが学生と指導者の間で必要である。大学は、明確に定めた学生の進歩状況を評価し、支援するための仕組みを設け、学生や関連するスタッフに知らしめる。
- ・ 評価プロセスの主な目的は、学生が適当な期間内に首尾よく履修プログラムを修了できるように、学生に全般的な支援を提供することである。評価の実務の目的と頻度は、学生と指導者の両者が両者にとって適切な計画を立て、関連する書類を作成し、必要に応じ他の個人に意見を聞くことができるように初めから明確にする必要がある。学生の進歩状況が満足できるものでない場合には、評価プロセスに学生が向上するための支援を利用できるようにすることを盛り込むべきである。

6 学生の研究能力等の開発

- ・ 大学は、学生に対して個人の能力及び専門的能力を開発する適切な機会を提供するものである。学生は、有能な研究者になるため、又はその雇用適性を強化し、課程修了後、昇進等に資するために必要なコミュニケーションその他の技能を開発するための支援を必要としている。学生のニーズを満たすことができるように、履修プログラムの質を保証するメカニズムの一環として、学生に対して提供する研究能力と一般的な能力の教育について、大学が定期的に再検討することが有用と思われる。
- ・ 大学院生が教育指導を行う機会を与えられた場合には、適切なガイダンスと支援を提供する。
- ・ 大学は、学生が個人の能力の発達を記録する機会を提供する。

7 フィードバックのメカニズム

- ・ 大学は、大学院における履修プログラムに関与するすべての関係者からフィードバックを集約し、審査し、必要に応じて対処するメカニズムを設定する。学術的水準を定期的に審査する活動の一環として、大学は、その質を保証するプロセスの中で適切な方法でフィードバックを活用すべきである。フィードバックと審査は、通常、毎年少なくとも一回の周期で実施すべきである。フィードバックに応じて取られた措置に関する情報は、容易かつ迅速に関係者が利用できるようにすべきである。

8 学位授与のための審査

- ・ 大学は、異なる履修プログラムの学術水準と卒業生の成績を定めることを可能にする、学位を審査するための基準を活用する。
- ・ 大学院の学位の評価基準を適用することは、大学が、学内外でそのようなプログラムと学位の学術的な統一性を保護することに役に立つ。学生に評価基準を提供することは、大学が何を期待しているかについて理解させることになる。基準は、学生が目指す資格のレベルの能力や成果の範囲を広く示すものでなければならない。
- ・ 学位の審査手続きは明確、厳格、公正及び首尾一貫して運用されなければならない。

9 学生の不服申立て等(学生の不服申立てと審査請求)

- ・ 大学は、公平で関係者全てにとって明確で確固としていて首尾一環して適用されるような、学生の申し立てに対処する手続きを定め公表し、このような手続きによって、学生は、関連した情報を入力し自らの立場を主張する機会が与えられる。